



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

**東京都立大学**

現首都大学東京

大学院案内

GRADUATE SCHOOL INFORMATION 2020

首都大学東京は、2020年4月1日に大学名称を東京都立大学に変更する予定です。

## TMU Vision 2030

# ～学問の力で、 東京から世界の未来を拓く～

首都大学東京は、東京都が設置する唯一の総合大学として、本学の特長を活かした教育を実施することにより、社会の変容に応じて活躍できる人材を輩出するとともに、多彩な基礎研究や応用研究、大都市課題研究を推進することで、東京都の発展に貢献し、ひいては世界の未来を拓いていきます。

## 首都大学東京のあるべき 将来像を描いたトップビジョン

### 1. 高度な研究力と質の高い教育の好循環

卓越した研究者でもある教員が、高度な研究力に裏付けられた質の高い教育を提供し、高い資質・能力を有する学生と共に議論を深めることで研究力をさらに向上させる「高度な研究力と質の高い教育の好循環」を一層加速させます。

### 2. 学び続ける力を有し、協働して新たな価値を創造できる人材の育成

幅広い学問分野を有し、真面目な学生が集う本学の特色を活かし、学生と教員の密度の高い対話、異なる価値観を有する学生同士の切磋琢磨を通して、興味・関心の幅を広げ、深く考え抜く力を高めることで、主体性を持って課題を設定し、協働して新たな価値を創造できる人材を育成します。

### 3. 多様な人々が集い、学び合う、開かれたキャンパス

国籍、文化、性別、年代、障がいの有無等を超えて多様な人々が集い、学び合い、相互に尊重し合うキャンパスを実現するとともに、生涯を通じた学びに資するため、広く地域や都民に学習や交流の場を提供します。

## Contents

TMU #SYSTEM	
p002	大学院での高度な専門性の修得を 学業奨励や経済面で支援します
p002	時代の要請に応える7研究科 学内進学制度 早期卒業制度 奨学金制度
p003	大学院分野横断プログラム 長期履修制度 ティーチング・アシスタント(TA)制度 大学院生国際学術会議派遣支援事業 科目等履修生
研究 Close Up	
p004	人文科学研究科
p005	法学政治学研究科
p006	経営学研究科
p007	理学研究科
p008	都市環境科学研究科
p009	システムデザイン研究科
p010	人間健康科学研究科
p011	学長メッセージ
研究科/専攻(領域)・学域	
p012	人文科学研究科 p012 社会行動学専攻 p013 人間科学専攻 p014 文化基礎論専攻 p015 文化関係論専攻
p016	法学政治学研究科 p016 法学政治学専攻(法律学分野/政治学分野) p017 法曹養成専攻(法科大学院)
p018	経営学研究科 経営学専攻 p018 経営学プログラム 経済学プログラム p019 ファイナンスプログラム
p020	理学研究科 p020 数理科学専攻 p021 物理学専攻 p022 化学専攻 p023 生命科学専攻 生命科学領域/応用生命科学領域
p024	都市環境科学研究科 都市環境科学専攻 p024 地理環境学域 p025 都市基盤環境学域 p026 建築学域 p027 環境応用化学域 p028 観光科学域 p029 都市政策科学域
p030	システムデザイン研究科 システムデザイン専攻 p030 情報科学域 電子情報システム工学域 p031 機械システム工学域 航空宇宙システム工学域 p032 インダストリアルアート学域
p034	人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 p034 看護科学域 理学療法科学域 p035 作業療法科学域 放射線科学域 p036 フロンティアヘルスサイエンス学域 ヘルスプロモーションサイエンス学域
p038	大学院入試状況
p039	学費/奨学金
p040	大学院選考日程
p041	アクセスマップ

# 大学院での高度な専門性の修得を 学業奨励や経済面で支援します

高度な専門性の修得を目指す大学院での学びは、自主的学修を基本とします。首都大学東京大学院はその姿勢を後押しするため、学修の奨励、目的の早期達成、経済的支援、国際学術界への進出などをサポートする、さまざまな制度を整えています。

## 時代の要請に応える7研究科

研究科	専攻	入学定員	
		博士前期	博士後期
人文科学研究科	社会行動学専攻	14名	10名
	人間科学専攻	17名	6名
	文化基礎論専攻	13名	5名
	文化関係論専攻	5名	4名
法学政治学研究科	法学政治学専攻	6名	4名
	法曹養成専攻(法科大学院)	40名*	
経営学研究科	経営学専攻	50名	5名
	経営学プログラム		
	経済学プログラム		
理学研究科	数理学専攻	25名	8名
	物理学専攻★1	35名	10名
	化学専攻★1	35名	9名
	生命科学専攻★2	40名	16名
都市環境科学研究科	都市環境科学専攻		
	地理環境学域	15名	5名
	都市基盤環境学域	35名	4名
	建築学域	35名	4名
	環境応用化学域	50名	6名
	観光科学域	15名	5名
システムデザイン研究科	システムデザイン専攻		
	情報科学域	35名	6名
	電子情報システム工学域★1	60名	6名
	機械システム工学域★2	65名	6名
	航空宇宙システム工学域	30名	4名
人間健康科学研究科	人間健康科学専攻		
	看護科学域	10名	4名
	理学療法科学域	17名	5名
	作業療法科学域	10名	4名
	放射線科学域	21名	6名
	フロンティアヘルサイエンス学域	4名	2名
ヘルスポモーションサイエンス学域★2	8名	4名	

2018年度から「超伝導理工学プログラム」(対象専攻・学域★1)と「生体理工学プログラム」(対象専攻・学域★2)を開設しています。

## 学内進学制度

学内学部生向け

### 学内進学の希望者は 筆記試験が免除されます

首都大学東京大学院への学内進学を希望し、学部において優秀な成績を修めている学生に対して、筆記試験などを免除する制度があります。

※人間健康科学研究科は放射線科学域のみ。人文科学研究科、法学政治学研究科(法曹養成専攻)、経営学研究科(経営学専攻)は除く。

## 早期卒業制度

学内学部生向け

### 学内進学希望者は 3年間で学部卒業が可能です

首都大学東京には、3年次修了の段階で学部の卒業を認める制度があります。実施しているのは理学部、都市環境学部、システムデザイン学部の3学部です。卒業後に大学院への進学を予定しており、一定以上の成績を修めている学生が対象です。

## 奨学金制度

全対象者

### 大学院生を対象とした 法人独自の奨学金制度を整備

首都大学東京大学院の学生を対象とする法人独自の奨学金制度として「首都大学東京大学院生支援奨学金」と「首都大学東京博士後期課程研究奨励奨学金」があります。どちらも優秀な人材の輩出、および研究に専念するための支援を目的とした給付型の奨学金です。

▶ p039

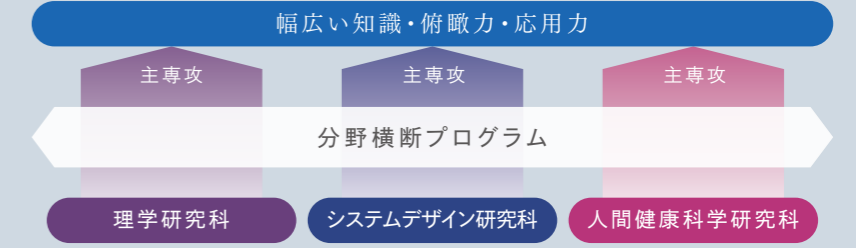
## 大学院分野横断プログラム

全対象者

### 研究科や専攻の枠を超え 分野横断的な科目を体系的に履修

主専攻の科目に加え、研究科や専攻の枠を超えた分野横断的な科目で構成される体系的なプログラムを履修することにより、他分野の先端的な研究を学ぶことを通じて自身の研究力を更に高めるとともに、研究に対する視野を広げ応用力を身に付けることを目指します。

### プログラムのフロー



## 長期履修制度

全対象者

### 仕事やライフイベントに応じて 自身の就業年数を延長できます

仕事、および出産・育児、介護などの事情を持つ場合、大学院の標準修業年限を超えて各課程の履修を認める制度です。入学後も申請は可能ですが、入学前に申請すれば、授業料の年額は標準修業年限分、在学期間に応じて分割した額となります。

※本制度を導入していない研究科もあります。

### 授業料イメージ

		一般学生(参考)		4年間の長期履修	
1年	前期	260,400	260,400	130,200	130,200
	後期	260,400	260,400	130,200	130,200
2年	前期	260,400	260,400	130,200	130,200
	後期	260,400	260,400	130,200	130,200
3年	前期	—	—	130,200	130,200
	後期	—	—	130,200	130,200
4年	前期	—	—	130,200	130,200
	後期	—	—	130,200	130,200
合計		1,041,600		1,041,600	

## ティーチング・アシスタント(TA)制度

全対象者

### 教員とともに授業運営をサポートし 自らのキャリア形成を図る

大学院生の教育力向上と経済的支援を目的にTA制度を充実。業務の難易度により複数の職区分を設けていることが特徴です。教員とともに授業をサポートし、自らのキャリア形成を図ることができます。

## 大学院生国際学術会議 派遣支援事業

全対象者

### 国際学術会議への出席にかかる 渡航費用を支給します

外国で開催される国際学術会議に大学院生を派遣する際、渡航にかかる旅費を支給する制度です。国際的視野を有する優秀な研究者の育成・確保を図ることを目的とします。

## 科目等履修生

全対象者

### 興味のある特定の科目だけを学ぶ パートタイムの科目履修

フルタイムでの学修が難しい方や、興味のある特定の科目だけを学びたい方を対象に、1科目または複数の科目を履修し、受講した科目の単位を取得できる制度です。各研究科の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ科目等履修生として入学を許可します。東京都立大学または首都大学東京の卒業生は、教員免許や学芸員資格の取得のため、この制度を利用できます。

#### 対象研究科・専攻

人文科学研究科  
お問い合わせ: 042-677-2053

経営学研究科 経営学専攻  
お問い合わせ: 042-677-2303 / biz@jmj.tmu.ac.jp

理学研究科 生命科学専攻  
お問い合わせ: 042-677-2558

人間健康科学研究科  
お問い合わせ: 03-3819-1211(代)

科目等履修生が履修を許可される科目、出願資格、選考方法、修得可能な単位などは、研究科により異なります。詳細については、各研究科までお問い合わせください。

# 伝統の理論言語学に脳神経学、 遺伝学が合流し人間だけが持つ言語の本質に迫る

# 法改正を経ることなく 法解釈により大統領権限を拡大させる構図



## 言語にアプローチする 人文科学と自然科学

言語に関する研究は長い間、言語の構造や法則を説く理論言語学を中心として進められてきました。近年そうした人文科学のアプローチとは別に、脳神経科学や神経科学の分野でも言語の研究が進められています。

脳神経科学における言語研究は、臨床の現場に端を発します。病後やけが、老化により、言語機能が十分に働かなくなるケースがあります。いわゆる失語症ですが、その病理解明と治療法の開発のため、言語をつかさどる脳の研究が盛んに行われるようになりました。一方、幼児が言語を獲得するステップも研究されていますが、そのメカニズムは解明しきれていません。

脳神経科学が脳と言語の関係を対象とするのに対し、私が専門とする理論言語学は、言語という現象を研究対象とします。私はその中でも音韻、音節をモデル化し、言語の普遍的な法則の確立を目指しています。

## 日本で唯一、世界でも希少な 3分野連携の研究体制を確立

2014年に設立された「言語の脳遺伝学研究セン

ター」では、言語に向けた異なる研究の流れを合流させ、さらに言語の獲得や活用における個人の特性や環境の影響も視野に入れるべく遺伝学を加え、研究体制を構築しました。遺伝学の研究では、東京都医学総合研究所と協働し、都内に住む10代の子どもと保護者に対して言語に関する調査を実施。現在はその調査データを、統計学的手法を用いて解析を進めています。

首都大学東京の「言語の脳遺伝学研究センター」は、理論言語学、脳科学、遺伝学の研究者が連携する、日本では唯一であり、世界でも極めて希少な研究拠点です。理論言語学の学界でも、脳神経科学への関心が高まってきましたが、遺伝学まで射程を届かせた研究は他に類を見ず、独自性の高い研究といえます。

すでに本センターでの研究は教育に反映されており、理論言語学を学ぶ、私の「言語科学教室」でも脳波測定を導入するなど、新たな試みが始まっています。また、研究の意義を広く社会に発信するため、異分野の研究者が一堂に会するシンポジウムを開催し、言語・脳・遺伝に関する新しい研究を紹介しています。

言語とは、人間だけが持つ高度な認知機能ですから、言語の本質を解明することは言語コミュニケーションの促進という観点から重要であり、何より人間の本質に迫る研究でもあると考えています。

## Profile

人文科学研究科 人間科学専攻  
言語の脳遺伝学研究センター  
研究センター長

本間 猛 教授

国際基督教大学大学院教育研究科(英語教育、言語学)博士前期課程修了。筑波大学大学院文芸言語研究科(英語学)博士課程単位取得満期退学。玉川大学、東京都立大学を経て、2005年、首都大学東京基礎教育センター准教授に。2013年より現職。

## Profile

法学政治学研究科 法学政治学専攻

梅川 健 教授

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。イェール大学での研究を経て、2013年首都大学東京都市教養学部法学系准教授に。2017年から現職。著書に『大統領が変わるアメリカの三権分立制:署名時声明をめぐる議会との攻防』。

## 国内の批判が広がらなかった アメリカ大統領の権限拡大

アメリカ合衆国憲法は厳格な三権分立制を取っており、立法権を議会に独占させています。行政の長である大統領は法律を執行する立場にあるとし、法案提出権すら与えられていません。大統領ができることは、議会が成立させた法案の全体を認めるか拒否するかの判断のみです。ところが2005年、ジョージ・W・ブッシュ大統領は法案への署名の際、議会が書き込んでいた拷問を禁止する文言を無効にすると言明し、それ以外の条文を認める署名をしました。これは、政治のルールを定める憲法には明記されていない行為であり、権限拡大であるといえます。当然、大統領による権限拡大をメディアが批判しキャンペーンを張りましたが、アメリカ全土に広がるには至りませんでした。

## 権限拡大を「合法」とする 署名時声明という手法

アメリカ政治史をさかのぼり調べると、歴代の大統領による憲法解釈と行動の積み重ねにより、

ルールが変えられていたことが分かり、署名時声明(signing statement)という手法が行政の憲法解釈として「合法化」されていたのです。憲法を変えることなく、憲法の解釈により法典に記載されていない行為を「合法化」した経緯には、政府に雇用されていた法律家の助言があったことも現地での資料調査により明らかになりました。

当初の私の研究は署名時声明を対象としていましたが、先の例と同じように、解釈という枠組みで合衆国憲法、および議会が立法した法律の趣旨を変えた他の事例があるのではないかと考え、大統領の行動により権限を拡大させた例を探っています。

日本でも憲法と憲法解釈が折に触れて議論となっています。立法権を持つ議会の構成員である議員と、法律を執行する大統領という行政の長を、それぞれの選挙で選ぶアメリカの政治と、選挙で選ばれた議員が選出する内閣総理大臣が行政を担うわが国の政治とを一概には比較することはできませんが、授業や研究では両国の政治比較もテーマとして扱っています。

政治の世界では、公職者や行政が公にした言動や文書の背景にまで視線を届かせることで、初めて見えてくる意思決定の真実があると考えています。

## 日・英・豪の公的会計制度を比較し 東京都の「新公会計制度」の効果を検証する

## 電気を使う全ての場面を一変する 超伝導体の発見と物性解明に挑む



### 東京都が導入した 「新公会計制度」の効果

日本の財務会計制度は、変革を迫られています。企業においては、国際的な会計基準との競合・共存と「高品質化」が求められています。同様に、あらゆる公的組織で会計制度改革が提唱されています。とはいえ、とすれば改革の形式が優先され、運用・利用方法の検討が後回しにされる傾向があります。国や地域、公的組織においては、それぞれの置かれた状況により改革のあり方はさまざまであってよいはずで、東京都を含め日本の自治体の特質・プライオリティに適合する会計・予算制度の改革の方向性を提案するため、研究を進めています。

現在実施している研究は、日本の公的組織の会計・予算制度を、イギリスやオーストラリアのそれと比較分析することです。この研究は、東京都の支援を受ける「高度研究」に採択されたことが本格化の契機となりました。

発端は、東京都が民間企業の会計制度をベースとする「新公会計制度」を2006年度に導入したことでした。公会計には、効率性、有効性、持続可能性に加え、公平性の観点も求められ、企業の財務会計とは性格が異なりますが、東京都は従来の現金主義の決算書とは別に、発生主義の財務諸表を作成し、現金収支だけでなく、

将来予測も取り入れ、より効率的な予算配分を実現できる可能性を模索しています。そこで、東京都の「新公会計制度」が、予算制度とその運用にどの程度影響しているかを検証し、その効果やフィードバックを他国や他地域、他の組織で計測された結果と比較することによって、各々の特徴を探ろうとしているわけです。

### 他の自治体への適用や 海外への制度輸出も想定

現状では現金主義の決算書と発生主義の財務諸表は直接比較できず、財務諸表の結果を来年度の予算にそのまま結び付けることができません。そこで、予算書を発生主義で作成しているイギリス・オーストラリアの制度を分析し、決算書と財務諸表の効果を実証しようというわけです。

検証の結果次第では、逼迫した財政状態にある自治体でも、最重要課題に重点的に予算を充てることにより、有意義な資源配分の実現が期待でき、さらには他のアジア諸国にそのシステムを“輸出”できるようにすることも見据えています。オリンピックイヤーを目前に結果が得られるよう、現在、先行研究の検討と問題点の整理を進めています。

### Profile

経営学研究科 経営学専攻

野口 昌良 教授

小樽商科大学大学院商学研究科修了。ウェールズ大学カーディフ校カーディフビジネススクール修了。北星学園大学経済学部、首都大学東京、神戸大学などでの勤務を経て、現職。

### 化学的に新物質を合成し 物理学的にメカニズムを解明

私の研究室では、電気抵抗がゼロになる超伝導体をつくり、その物性を解明しています。超伝導体の作製には合成など化学の手法を用い、発見した超伝導現象のメカニズムや超伝導体の物性は物理学の領域で明らかにします。超伝導体と物質の構造が共通する熱電材料も、研究対象。どちらも層状構造を持ち、各層で電子が二次元に動きます。層ごとに“いじりやすく”、例えばAの層に手を加えると、Bの層で超伝導を起こしたり、熱電効率を高めたりします。もちろん予測は立てますが、実際のところやってみないと分からないのが面白いところ。その点で経験の浅い学生にも幸運が訪れるかもしれません、この研究室からも、学生の研究が世界にインパクトを与えています。熱電材料については、工業化につなげる材料工学も視野に入れた研究環境を整えていることも特徴です。

化学と物理学、さらに材料工学を包括し互いを関連付けながら進める研究は、私にとって分かちがたい思考の連続です。しかし、一つの研究室でそれらを連携させる例は世界的にも稀有なようで、海外の学会で成果を発表すると、「ミスグチの研究は化学か？ 物理学か？」と興味を持たれることがしばしばあります。

### Profile

理学研究科 物理学専攻

水口 佳一 准教授

2006年、筑波大学第一学群自然科学類の物理学専攻を卒業。同大学大学院で修士(物理学)を取得し、日本学術振興会特別研究員を経て、母校で博士(工学)を取得。2011年に首都大学東京に着任。2017年に現職に就く。

### 100年続く科学の挑戦に加わり 社会の変革に貢献する

新物質だけでなく、既存の超伝導体についても、メカニズムの解明に取り組んでいます。これまでの研究で発見が確認された超伝導現象も、メカニズムまで明らかにされているとは限りません。私が6年前に発見した物質も、新たな超伝導体であることは証明できたものの、メカニズムは明らかにできていません。つまり、超伝導体であることは間違いないが、どのような仕組みで現象が起きているのかが分からない物質がたくさんあるということ。その機構の解明を、世界中の研究者が競って、私たちもその渦中にいます。超伝導の新たな原理が明らかにすることは、それ自体が大きな発見になるのです。

マイナス269度という超低温下で超伝導現象を現す物質が発見されてから、100年以上が経過しました。その後いまに至るまで、より高い温度で超伝導現象を起こす物質の発見に世界が挑戦し続けています。

通常の気圧と常温で機能する超伝導体が発見できれば、電気を使う全ての技術や機器を一変させ、省エネルギーや省資源などの環境効果も計り知れません。かつて科学の夢物語として語られたテーマを、私たちは実現可能な研究目標として取り組んでいます。

## 難易度が高まるトンネル建設に 新たな指標を提示し世界に発信する



### トンネルの建設と開通後の 快適で安全な利用を支える

日本にはトンネルが、公に記録された道路用だけでも約1万本あります。地元の山を人力で掘り進めたものから、都市部の地下や海底を最新の技術を用い掘削したのまで工法はさまざまであり、利用方法も多種多様です。

私の研究は、トンネル建設の安全と利用時の安心を支えることが目的です。施工に際しては、新たに掘る地盤や岩盤の質と強度や、掘り進める空間を保持する支保工の耐力などを調査した結果からそれらの安定性を評価し、崩落などによる労働災害を防ぐ方法を提案します。また、開通後の利用を想定し、換気や照明の設備、非常用施設といった付属施設の設計や運用法のほか、トンネルを適正に維持管理するための手法を確立し、より快適で、かつ安全にトンネルが利用できるような対応策を考案したりすることも研究対象です。

### 社会への実装を見据えつつ 原理・精度を徹底追究する研究

地下を掘るトンネルの施工は、先の状態を肉眼で確認しつつ進めることができないという点で、地上で行わ

れる他の構造物の施工とは決定的に異なります。しかも、掘り進める地山の状態の把握にも限界があります。

もちろん現在の調査技術であれば、地質をくまなく調べ上げることが可能かもしれませんが、施工だけでも非常に多くの費用と時間が投入される中で、調査に過剰なコストを割くことは、安全性を最優先するプロジェクトであっても現実的ではありません。その原資が税金であることを考えれば、なおさらです。さらに、多くの人が一日も早い開通を待ち望んでいるのですから、限られた資源を最大限に生かす選択が求められます。

トンネルに関する研究は、インフラとして広く利用されるという現実と常に向き合っています。近年は、都市部の大深度地下や海底、かつてであれば掘削を諦めざるを得なかった悪条件の地山といった難易度の高い施工が増え、工法が開発されたり、これまで使われなかった材料を用いたりしています。研究にも、そうした状況に対応した新たな指標が求められています。

火山国であり地震が多発する上、脆弱な地盤が全国に点在する日本におけるトンネルに関する研究の知見は、世界が欲しています。その一翼を担う大学の研究では、普遍的な原理の把握と同時に、社会への実装を見据えつつ、徹底的に精度を追究し、そこで得たデータや知見を有用な形で世界に還元する使命を持つと考えます。

### Profile

都市環境科学研究科 都市基盤環境学域  
安全防災分野 トンネル・地下空間研究室

#### 砂金 伸治 教授

1996年、東北大学大学院工学研究科土木工学専攻の博士前期課程修了。同年、建設省土木研究所道路部トンネル研究室に入所。その後、内閣府防災担当参事官補佐、独立行政法人土木研究所を経て、2018年より現職。

## 超音波の信号や画像を処理・解析し 新たな価値と機能を創出する



### 患者の負担を減らす がん診断の開発を目指す

がんの確定診断は現在、各診療科の医師が体内から切り出した疑わしき組織を、病理医が染色してプレパラートを作成し、顕微鏡で覗いて判断します。一連の過程を経る検査は相応の時間を要し、また部位によっては開腹手術を避けられません。

医療現場のこうした現状に対し、私の研究室が開発を進める超音波顕微鏡のシステムは、体外に組織を取り出すことなく、しかもリアルタイムにがんの確定診断ができる能力を目指しています。協力関係にある医師は「音響病理学」と呼び、手法の確立と学問としての体系化を期待してくれています。臨床の現場で実用化されるまでには、これからいくつもの課題をクリアしなければなりません。この研究には私が専門とする「音響」と「画像」両分野の知見と経験を注いでいます。

### 音響と画像の研究が 合流するシステム

当研究室は本来、超音波を使った信号処理と解析を専門とします。しかし、がん診断のシステム開発において

は、診断の高精度化を求めて超音波発信器を含めたセンサの開発にも取り組んでいます。センサ開発では、学内の機械システム工学系の研究室や他大学との連携を進めており、異分野が協働して診断支援システムとして構築していく計画です。

超音波と並ぶ当研究室のもう一本の柱が、撮影した平面の画像から3D情報を抽出するコンピュータビジョンの研究です。この技術は、医療分野では救急搬送中に撮影した画像から治療の優先度を測るトリアージを支援します。またスポーツ分野での応用も想定しており、選手の動きから試合を優勢に運ぶ戦術の選択や、指導に必要な情報を提供するシステムの開発を考えています。

「音響」と「画像」が研究室に共存するのは、私個人の経歴がそれらの研究を経てきたためです。民間企業に在籍していたときに担当したなど、自らが希望した研究とは限りませんが、いまとなってはそれらの経験が、私に研究者としての幅をもたらしています。何が幸いするか分からないので、若手の研究者には意にそぐわなくとも真剣に取り組んでみれば得ることがあると伝えていきます。また、学問では異なる分野であっても、私にはセンシングしたデータを適正に処理し、人が分かりやすい形にするという点で共通しています。いまそれが、社会に役立つシステムとして合流しようとしています。

### Profile

システムデザイン研究科  
電子情報システム工学学域

#### 田川 憲男 教授

1986年、東京立大学工学部卒業。1988年、東京工業大学大学院総合理工学研究所修士課程修了。富士通研究所を経て、1992年に東京立大学の助手に。1995年、同大学で博士(工学)を取得。2007年より現職。

## 看護の現場で広く使われる技術に科学的な根拠を与えるために



### 温度の刺激で患者さんの覚醒を促し生活の質の維持・向上を図る

臨床の現場では、技術の基本は共有しつつも、年齢や性別、病状や看護への反応などは患者さんごとに異なるため、熟練看護師が持つ豊かな経験や感覚を重視する傾向にあります。しかし医療の現場は、近年EBP(Evidence-Based Practice)という科学的な根拠に基づく実践を強く求められるようになりました。これは看護の領域でも、科学的な裏付けを伴う技術を提供しなければいけない時代になったといえます。

この考え方は決して、これまでの看護技術を否定するものではありません。多くの患者さんが心地よいと感じる既存の技術には、確たる理由があるはず。私の研究ではその科学的な根拠を明らかにし、誰もが扱える看護技術として確立することを目指しています。

私が着目しているのは温度の活用です。脳腫瘍や脳出血、認知症の患者さんは意識が不明瞭になり、その人らしさを失うことや、してほしいことを言葉で伝えられなくなることがあります。その結果、生活の質が著しく低下します。脳神経外科に勤務していた看護師時代、そうした患者さんに温めたタオルを当てると意識が覚醒し、生活のリズムを取り戻すきっかけとなりました。

た。この経験に基づき、本研究では温かい刺激などの温度の刺激が自律神経の活動や脳の血流に、どのように影響するかを生理学的に検証しています。これまで温かい刺激は、安静やリラックス効果を期待して用いられることが多かったのですが、病態や患者さんの状態に応じて、逆の覚醒面で活用できるよう実証したいと考えています。

### 専用の器具を必要としない一般の人でも使える看護技術に

看護師は、患者さんの体を拭いたり、シャワーを使ったり洗髪したりと、お湯を使うケアを頻繁に行っています。つまり、温かい刺激の効果が実証できれば、看護師は通常の業務の中で、患者さんの生活の質を維持し高めることができるということになります。

看護師の仕事は、病気を治すことだけではありません。病気を患っていても、より良く生きるためのサポートをすることも看護師にとって重要な仕事です。専用の医療器具がない環境であっても、患者さんのために効果的に使える技術を確認し、経験年数の浅い看護師だけでなく、在宅で介護を担う家族の方々でも活用できるようになること、それが私の研究の目的です。

### Profile

人間健康科学研究科  
人間健康科学専攻 看護科学域

前田 耕助 助教

東京都立保健科学大学健康福祉学部看護学科卒業。大学院の脳神経外科で看護師として勤務した後、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科生体・生活機能看護学分野に学び、修士(看護学)を取得。2014年から現職。

## 学長メッセージ



### 「高い研究力」と「質の高い教育」との好循環を実現 世界から注目される最先端の研究の場

首都大学東京は、2020年4月から大学名称を「東京都立大学」に変更いたします。

これまで、世界有数の大都市である東京都が設置する唯一の総合大学として、世界トップクラスの大学であり続けたいと、教育、学術研究はもとより、国際化、ダイバーシティ、社会貢献などの分野においても、環境の整備を続けてきました。このたびの名称変更を機に、これまで培ってきた教育力・研究力を基盤に、さらなる発展を目指していきます。

本学の変わらぬ大きな特色として、ここでは以下の2点を紹介しておきます。

まず、その一つは、本学が総合大学として基本的な学問分野を網羅しつつ、互いの顔が見える適度な規模を保っているということです。これは、優れた教授陣、教員と学生の距離が近い、親密な人間関係のなかで研究教育が行われていることを意味しま

す。学部生約7,000名、大学院生約2,000名、教職員約1,000名、全学一万人規模の大学です。少人数教育の環境の下、丁寧な研究教育がなされており、研究面においても、研究科の枠を越えた学際的最先端研究も盛んに行われています。

もう一つの特徴は、本学では、世界第一線で戦える、教員の高い研究力が質の高い教育へと結びついているということです。本学の個々の教員の研究力は国際的に見ても高い水準にあることはよく知られています。例えば、学術先端分野において、国際共著論文率やTop10%論文割合は、国内の最有力大学に肩を並べるか、分野によってはそれを遙かに凌ぐ、高い水準を維持しています。こうした学術最先端に位置する教員は、研究においても、そして、大学院生の指導でも、学生にとって輝く存在です。学生はそうした教員の姿に憧れて育っていくものです。

高い水準の研究が、質の高い教育に循環し、そこで育った学生がやがては高い水準の研究成果を産み出す、つまり、高い研究力と質の高い大学院教育の好循環が機能しているのです。

今後も本学が幅広い教養と深い専門知識を教育することは勿論ですが、本学のより大きな目標は、学生自身の能動的・主体的な学びの姿勢を育て、「本物の考える力」と、誰とでも協働できる能力を身に付け、将来の社会環境・自然環境の変化に対して創造的な貢献ができる人材を世に送り出すことにあります。

いうまでもなく大学は知の拠点です。「学問の力で、東京から世界の未来を拓く」をモットーに掲げ、本学の知のリソースを結集し、学生諸君の本物の学びを全力で支援します。

首都大学東京 学長 上野 淳

# 人文科学研究科

社会行動学専攻 人間科学専攻  
文化基礎論専攻 文化関係論専攻

人文科学研究科は、半世紀に及ぶ東京都立大学大学院の伝統と学問的蓄積を引き継ぎつつ、さらに新しい分野として、「言語科学」「表象文化論」「日本語教育学」を設置し、また、心理学分野とは別に、博士前期課程に「臨床心理学」分野を設けるなど、時代の変化に即応しながら、人間・文化・社会に関わる極めて広範囲の学問領域をカバーし、充実した教育・研究活動を行っています。「専攻」は、社会行動学、人間科学、文化基礎論、文化関係論の4つにまとめられていますが、学生募集単位はもっと専門に分かれた「分野」または「教室」であり、入学した学生諸君は、従来どおりの専門的な研究を行うことができます。博士前期課程では、9月と2月に入試を行っており、年に2回の受験機会があります(博士後期課程は2月のみ)。

## 社会行動学専攻

入学定員	博士前期課程 / 14名、博士後期課程 / 10名
主な就職先	アイネス、荒川区社会福祉協議会、KISCO、ゲオホールディングス、大和総研、ドン・キホーテ、ヤマハミュージックジャパン、ライク、厚生労働省、インドネシア科学院(LIPI) など



ゼミ風景

現代社会、とりわけ都市のグローバル化と高度情報ネットワーク化という新たな状況の下で、産業、交通、文化の諸領域において、社会構造とその変動を歴史的・理論的に解明するとともに、他文化・社会との比較研究を行い、国際化や少子高齢化に伴うさまざまな社会的課題に対応しうる政策的研究への期待と要請はますます高まっています。そのような情勢にあって、現場のフィールドワークを中心とする調査研究とそれを裏付ける理論的・歴史的研究の融合・調和は今日急務の課題といえます。本専攻は、それらの課題に学際的に取り組む人材の養成を目標とし、〈社会学分野〉、〈社会人類学分野〉、〈社会福祉学分野〉の3分野において学生を募集します。

### 教員一覧 / 専門分野

<b>社会学教室</b> 栗山 正光 教授 / オープンアクセスや機関リポジトリなど、大学図書館と学術情報流通の新しい体制に関する研究 左古 輝人 教授 / 社会学理論、社会学史 玉野 和志 教授 / 都市社会学、地域社会学 丹野 清人 教授 / 国際労働力移動、移民・エスニシティ、産業社会 中尾 啓子 教授 / 社会階層論、社会調査法、社会統計法、社会ネットワーク 中川 薫 教授 / 保健医療社会学、福祉社会学 不破 麻紀子 教授 / ジェンダーの比較社会学、家族社会学 宮台 真司 教授 / 社会システム理論、権力理論、宗教理論、青年文化論、消費社会学 山下 祐介 教授 / 地域社会学、リスクコミュニティ研究 和田 清美 教授 / 都市社会学、コミュニティ論、市民参加論 庄司 武史 助教 / 社会学史、社会思想	<b>社会人類学教室</b> 綾部 真雄 教授 / 文化人類学、タイ地域研究、エスニック・セキュリティ論 小田 亮 教授 / 社会人類学、人類学理論、文化理論 何 彬 教授 / 民俗学、東アジア研究、漢族研究 石田 慎一郎 准教授 / 社会人類学、法人類学、東アフリカの民族誌 田沼 幸子 准教授 / 文化人類学、映像人類学、キューバ・スペイン研究 深山 直子 准教授 / 社会人類学、先住民研究、オセアニア研究 澤井 充生 助教 / 社会人類学、中国地域研究、イスラム地域研究	<b>社会福祉学教室</b> 阿部 彩 教授 / 社会保障論、社会政策 杉野 昭博 教授 / 障害ソーシャルワーク、障害学、社会政策論 堀江 孝司 教授 / 社会政策論、福祉国家論 矢嶋 里絵 教授 / 社会保障法、障害者福祉法 和氣 純子 教授 / 高齢者福祉論、ソーシャルワーク論、社会福祉国際比較論 長沼 葉月 准教授 / ソーシャルワーク論、精神保健福祉、家族支援 室田 信一 准教授 / 地域福祉、コミュニティ、アクション・リサーチ、国際比較 安藤 藍 助教 / 児童福祉、家族論、福祉社会学
--	--	---

※ 2020年3月定年退職予定

## TMU #EDUCATION



01

世界と他者を洞察する、自己に公正に振る舞う：哲学・西洋古典学が与える力



02

01 現代を透徹して生き抜くための〈知力〉

洋の東西を問わず、もちろん現代のわが国でも、民主主義の発展、学問・芸術・社会の繁栄の背景には、いつでも哲学・西洋古典学の深い教養を備えた人々の寄与がありました。今後こうした教養は、社会のモラル・教養・文化を洗練・成熟させる原動力であり続けるはずで。特に現代論理哲学は、文系vs.理系といった退屈な壁を超え、数理諸科学、AI、環境・生命倫理など多様な分野で複雑な問題の解決に貢献しつつあります。

02 通説に惑わされず適切な選択肢を見出す

哲学の学びを通じ、「クリティカルシンキング」を行う力を身につけることが重要です。公正な批判を施しつつ、物事の本質に透徹しようとするこの知的態度は、人がどのような状況に置かれていても、予断や通念に惑わされず、的確な究明を行って適切な選択肢を突き止めること、ひいては、誰もが自由に、創造的に生きることをサポートしてくれる、真に望まれる力です。哲学・西洋古典学は、この能力を組織的・自覚的に訓練し、追究します。

## 人間科学専攻

入学定員	博士前期課程 / 17名、博士後期課程 / 6名
主な就職先	アイネス、MBM、小田急電鉄、鹿島建設、再春館製菓所、NIPPON ACADEMY、ファーストリテイリング、ヘルメチック、ミニストップ、江戸川区役所、大田区子ども家庭支援センター、慶北大学校 など



ゼミ風景

本専攻は人間諸科学を構成する5つの分野からなります。〈心理学分野〉は、実験心理学、認知心理学、発達心理学、社会心理学、計量心理学からなり、人間心理の諸側面への研究・教育を行います。博士前期課程では心理学分野は、臨床心理分野と分けて募集します。博士後期課程では、心理学分野は一つの分野として募集をします。〈臨床心理学分野〉は、博士前期課程における高度専門家養成コースとして、心理臨床の実践的専門性の習得とともに研究者育成も目指します。〈教育学分野〉は、教育政策・制度、学校教育、社会教育・生涯学習、就学前教育、特別支援教育、多文化教育等、人間形成に関わる理論的及び実践的研究・教育を行います。〈言語科学分野〉は自然科学としての言語学、生成文法を軸としたことばの研究を通してヒトの生得的な言語機能と脳科学的基盤を明らかにする研究・教育を行います。〈日本語教育学分野〉は、母語および第二言語・外国語としての日本語学や言語教授法、言語接触と言語習得、遠隔教育やマルチメディア教材の開発に関する研究・教育を行っています。

### 教員一覧 / 専門分野

<b>心理学・臨床心理学教室</b> 下川 昭夫 教授 / 臨床心理学、総合的な地域臨床支援、認知症高齢者の心理 永井 徹 教授 / 臨床心理学、心理面接法、児童期から青年期の心理臨床 沼崎 誠 教授 / 実験社会心理学、社会的自己、偏見とステレオタイプの研究 平井 洋子 教授 / 心理学的測定論、心理測定の方法論や計量的手法 村松 健司 教授 / 臨床心理学(学生相談・児童福祉施設における心理臨床) 渡部 みさ 教授 / 臨床心理学、思春期・青年期臨床 石原 正規 准教授 / 実験心理学、人間の知覚・運動系情報処理メカニズムの機能的特徴を探究 井上 和哉 准教授 / 認知心理学、感情心理学、注意・記憶・意思決定 酒井 厚 准教授 / 発達心理学、発達精神病理学 駒屋 雄高 准教授 / 臨床心理学、コミュニティ支援、ロールシャッハ法 山際 勇一郎 准教授 / 社会心理学、日本の人間関係の実証的研究 天野 陽一 助教 / 社会心理学、発達心理学、親密な対人関係と利他行動 佐藤 章子 助教 / 臨床心理学、精神分析的心理療法	<b>教育学教室</b> 荒井 文昭 教授 / 教育行政学、教育政治研究 野元 弘幸 教授 / 社会教育、生涯学習、多文化教育 河合 隆平 准教授 / 障害者教育学・教育史 金 俞貞 准教授 / 社会教育、生涯学習、日韓比較研究 杉田 真衣 准教授 / ジェンダー／セクシュアリティ教育、青年論 田中 浩司 准教授 / 発達心理学、保育・幼児教育、遊びの発達と指導 ハスゲレル 助教 / 多文化・多言語教育、中国少数民族教育(モンゴル民族) 松下 丈宏 助教 / 教育行政学	<b>日本語教育学教室</b> 浅川 哲也 教授 / 日本語学、日本語史 西郡 仁朗 教授 / 日本語教育学、教育学 長谷川 守寿 教授 / 日本語教育学、現代日本語文法の計量的研究 LONG, Daniel 教授 / 日本語教育学、言語接触論、社会言語学の日本語教育への応用 奥野 由紀子 准教授 / 日本語教育学、第二言語習得研究 神田 明延 准教授 / ネットワークやマルチメディアを利用した言語教育研究 小口 悠紀子 助教 / 日本語教育学、第二言語習得研究、日本語の文法習得 劉 永亮 助教 / 日本語-中国語-モンゴル語対照研究
--	---	--

※ 2020年3月定年退職予定

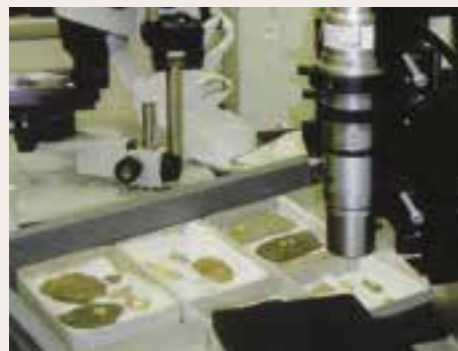


# 人文科学研究科

社会行動学専攻 人間科学専攻  
文化基礎論専攻 文化関係論専攻

## 文化基礎論専攻

入学定員 博士前期課程 / 13名、博士後期課程 / 5名  
主な就職先 ステップ、西東京バス など



出土遺物を分析

本専攻には哲学・西洋古典学、歴史学・考古学、表象文化論の3つの分野が含まれています。〈哲学・西洋古典学分野〉は、哲学と西洋古典学の2つの領域からなり、古代ギリシャから現代英米までの西欧哲学思想の各時代をカバーし、言語や科学といった観点からの世界の構造の理論的考察、価値や規範についての倫理的考察、また数学とも関連の深い論理哲学などの研究を行っています。〈歴史学・考古学分野〉は、日本史・東洋史・西洋史・考古学が一体となって、歴史的な思考力を持ち幅広い教養を身につけた職業人・研究者の養成を目指しています。〈表象文化論分野〉はイメージ論、視覚文化論、パフォーマンス・アーツ研究、音楽文化論、伝統芸能研究、言語芸術論などに取り組む芸術表象研究と、文化的事象を制度・権力・身体・メディアといった視座から検討する文化表象研究を軸に、芸術・文化の多様なテーマを幅広い観点から扱っています。

## 文化関係論専攻

入学定員 博士前期課程 / 5名、博士後期課程 / 4名  
主な就職先 東京都庁 など



本専攻には、以下の2分野5専攻が含まれています。学生の募集は「教室」単位で行います。

日本・中国文化論分野〈日本文学教室〉は、日本語学、古代・近世・近現代の日本文学を主要な研究テーマとしています。〈中国文学教室〉は、古典から近現代までの中国語学、中国文学、中国の地域文化史、映画、民俗、サブカルチャーなどを研究対象とし、中国と日本など東アジア諸地域の文化交流史も視野に取り込んでいます。

欧米文化論分野〈英文学教室〉は、イギリスとアメリカをはじめアフリカなどの英語圏をも教育研究の射程に入れ、これらの地域の歴史と言語文化に関する幅広い知識の教授を行います。〈ドイツ文学教室〉は、ドイツ・オーストリア・スイスなどのドイツ語圏の言語文化、メディア論を含む思想、芸術を主な研究対象としています。〈フランス文学教室〉は、中世から現代までのフランス語学、フランス語統語論、近世から近代までのフランス文学と思想、フランス現代思想を主要な研究対象としています。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 哲学・西洋古典学教室

石川 求 教授 / ドイツ近現代哲学  
大芝 芳弘 教授 / 西洋古典学、特にラテン語学・文学  
岡本 賢吾 教授 / 論理学・数学の哲学、情報の哲学  
栗原 裕次 教授 / 古代ギリシャ哲学  
松阪 陽一 教授 / 言語哲学  
木田 直人 准教授 / フランス哲学  
小池 登 准教授 / 西洋古典学、特にギリシャ語学・文学  
井原 健一郎 助教 / 西洋近世哲学

#### 歴史学・考古学教室

鎌倉 佐保 教授 / 日本中世史  
國 雄行 教授 / 日本近代史  
谷口 央 教授 / 日本近世史  
中嶋 毅 教授 / ロシア近現代史、在外ロシア史  
前田 弘毅 教授 / 中東・イスラーム史、ユーラシア研究  
福土 由紀 准教授 / 日本近現代史  
赤羽目 匡由 准教授 / 朝鮮古代史、東洋史  
出穂 雅実 准教授 / 考古学(ユーラシア上部旧石器研究)  
大貫 俊夫 准教授 / 西洋中世史  
高橋 亮介 准教授 / 古代ローマ史  
福土 由紀 准教授 / 中国近現代史  
稲垣 春樹 助教 / 近代イギリス史  
岩瀬 彬 助教 / 考古学

#### 表象文化論教室

赤塚 若樹 教授 / 映像文化論、視覚文化論、比較文学  
亀澤 美由紀 教授 / ジェンダー論、英語圏文学・文化  
三宅 昭良 教授 / 演劇・身体論、モダニズム文学  
角井 誠 准教授 / 映画研究・映画理論  
中嶋 泉 准教授 / 美術史・イメージ論  
福田 貴成 准教授 / 聴覚文化論・音楽文化論  
古永 真一 准教授 / 現代思想、精神分析、イメージ / テクスト研究  
高本 教之 助教 / 近代ドイツ文学、日本古典芸能、演劇文化

※ 2020年3月定年退職予定

### 教員一覧 / 専門分野

#### 日本文学教室

飯田 勇 教授 / 日本古代の文学・文化・思想の研究、歌・神話・物語などの研究  
猪股 とさわ 教授 / 日本古代文学  
大島 資生 教授 / 日本語学  
大杉 重男 教授 / 日本近代文学  
近藤 瑞木 教授 / 日本近世文学  
服部 剣仁矢 助教 / 日本古代文学

#### 独文学教室

園田 みどり 教授 / 近現代ドイツ文学  
福岡 麻子 准教授 / エリネクをはじめとする近現代ドイツ文学  
古屋 裕一 准教授 / ドイツ思想研究  
SCHLÖNDORFF, Leopold 准教授 / 19世紀以降のドイツ文学、特に黙示的文学  
犬飼 彩乃 助教 / 現代ドイツ文学、翻訳論

#### 中国文学教室

大久保 明男 教授 / 中国近現代文学、特に「満州国」時代の文学史・文化史  
木之内 誠 教授 / 場所と文字をめぐる中国古典文学史・文化史、文化景観論  
佐々木 睦 教授 / 中国幻想文学、古典小説、児童文学、図像学  
荒木 典子 准教授 / 中国語法史・語彙史  
飯田 真紀 准教授 / 広東語研究  
代 珂 助教 / 中国近代メディア文化研究、植民地メディア研究

#### 仏文学教室

藤原 真実 教授 / 18世紀フランス文学  
大須賀 沙織 准教授 / 19世紀フランス文学  
西山 雄二 准教授 / 現代フランス文学・思想  
GROISARD, Jocelyn 准教授 / 西洋古典学、古代哲学史  
須藤 健太郎 助教 / 映画史、映画論

#### 英文学教室

高岸 冬詩 教授 / 20世紀イギリス・アイルランド詩  
中村 英男 教授 / 19世紀イギリス小説  
越 朋彦 准教授 / 17世紀英文学  
辻 秀雄 准教授 / アメリカ文学(現代散文)、モダニズム  
安井マイケル 准教授 / 日米比較文学、14世紀イギリス文学、20世紀アメリカ文学  
吉田 朋正 准教授 / 批評史、アメリカ文学・思潮  
佐久間 千尋 助教 / 19世紀イギリス小説  
関口 洋平 助教 / アメリカ文学・アメリカ研究

※ 2020年3月定年退職予定

# 法学政治学研究科

法学政治学専攻  
[ > 法律学分野 > 政治学分野 ]  
法曹養成専攻(法科大学院)

法律学・政治学の領域における高度な研究を基盤に、国や東京都をはじめとする公共団体が抱える課題に具体的提言を提示できる21世紀の法学、政治学の核を目指します。これにより、国際水準に見合った研究者や有能な公務員の育成に取り組むとともに、研究成果を高度専門職業人養成プログラムにも反映させていきます。また、双方向の教育を重視し、独創的な研究課題の開発、研究領域相互の学問的交流や最先端の研究情報の共有化、研究手法やプレゼンテーション能力の育成等をすすめます。

## 法学政治学専攻

入学定員 博士前期課程 / 6名、博士後期課程 / 4名

### 法律学分野 / 政治学分野

<http://www.law.tmu.ac.jp/law.html>



政治学総合演習

法学政治学専攻は、法律学分野と政治学分野に分かれ、入試科目や取得できる学位が異なります。共通するのは、優秀なスタッフと恵まれた学習環境です。分野ごとに院生研究室があり、全員に個室が与えられます。教師1人に参加者が平均2~4名の徹底した少人数の演習のうえ、月に一度は研究会形式の総合演習が行われます。こうして鍛えられた学生は、博士後期課程に進むと紀要『法学会雑誌』に研究成果を発表する機会が与えられます。いずれの分野でも学界有数の優れた研究者や有能な職業人・公務員を輩出しています。各分野についてももっとお知りになりたい方は、パンフレットやホームページなどをご覧ください。

#### 教員一覧 / 専門分野

##### 法学政治学専攻

荒井 紀一郎 教授 / 政治学、実験政治学  
伊藤 正次 教授 / 行政学、都市行政論  
梅川 健 教授 / 比較政治、現代アメリカ政治  
大澤 麦 教授 / 西洋政治思想史、政治哲学  
大杉 覚 教授 / 行政学、都市行政論  
桶倉 典哲 教授 / 民法(財産法)  
木村 草太 教授 / 憲法  
河野 有理 教授 / 日本政治思想史  
境家 史郎 教授 / 現代日本政治  
篠田 昌志 教授 / 民法

谷口 功一 教授 / 法哲学  
陳 肇斌 教授 / 日本政治外交史、東アジア政治、日中関係  
野上 和裕 教授 / 西洋政治史  
長谷川 貴陽史 教授 / 法社会学  
星 周一郎 教授 / 刑法、刑事訴訟法  
山神 清和 教授 / 知的財産法  
尾崎 悠一 准教授 / 商法  
門脇 雄貴 准教授 / 行政法  
顧 丹丹 准教授 / 商法  
作内 良平 准教授 / 民法

田尾 亮介 准教授 / 財政法  
詫摩 佳代 准教授 / 国際政治  
棚橋 洋平 准教授 / 民事訴訟法・倒産法  
堤 健智 准教授 / 民法  
新倉 圭一郎 准教授 / 国際法  
堀田 周吾 准教授 / 刑事訴訟法  
山羽 祥貴 准教授 / 憲法  
谷井 悟司 助教 / 刑法  
前田 貴洋 助教 / 行政学

## TMU #EDUCATION



前身である東京都立大学以来の少人数教育の踏襲と特色あるカリキュラム

### 01 全教員一丸での指導

法学政治学専攻では、分野に所属する全大学院生と専任教員が参加して行われる「総合演習(法律学総合演習・政治学総合演習)」が必修科目とされており、全教員が一丸となった指導を行います。大学院生は、自らの学位論文の構想について報告するとともに、教員による最先端の研究結果の報告を聴くことができ、総合演習を通じて、研究姿勢や研究手法、プレゼンテーションのあり方を徹底的に学ぶと同時に幅広い視野が養われます。

### 02 真の少人数教育の実践

法科大学院では、少人数による双方向・多方向型の講義の徹底とオフィスアワーの実施によりマンツーマンともいえるような学生一人ひとりを大切にしている教育を実施しています。毎月行われるFD会議において、個々の学生の履修状況の把握や、教員間での情報共有を図り、学生の理解度に応じた指導を心がけるなど「コミュニケーションと信頼関係」を重視した心の通った真の少人数教育を実践し、学修成果へとつなげています。

## 法曹養成専攻(法科大学院)

<http://www.law.tmu.ac.jp/law/index.html>

入学定員 専門職学位課程(2年履修課程、3年履修課程) / 40名



模擬法廷

本専攻は、東京をはじめとする大都市の抱える複雑な問題に対して、それを解決する能力を有する法律家の養成を目指します。研究者教員による理論的な授業だけでなく、裁判官、検察官、弁護士などの実務家による授業を提供し、理論と実務をバランスよく学ぶことができます。少人数によるきめの細かい授業を行い、自習室では学生1人1人に固定席を提供し、学生が主体的に勉強できる環境を整えています。法学既修者向けの「2年履修課程」と法学未修者向けの「3年履修課程」の2つのカリキュラムを設定しています。

成績優秀者に対する奨学金や授業料減免などの経済的支援も整備しています。詳しくは法科大学院パンフレットや、ホームページなどをご参照ください。

#### 教員一覧 / 専門分野

##### 法曹養成専攻

石崎 泰雄 教授 / 民法、医事法  
木村 光江 教授 / 刑法  
富井 幸雄 教授 / 公法学  
峰 ひろみ 教授 / 刑事法実務  
矢崎 淳司 教授 / 商法

山田 俊雄 教授 / 民事法実務  
我妻 学 教授 / 民事訴訟法、民事手続法  
天野 晋介 准教授 / 労働法  
金崎 剛志 准教授 / 行政法  
手賀 寛 准教授 / 民事訴訟法

山科 麻衣 准教授 / 刑法  
鈴木 崇之 助教 / 憲法  
山田 峻悠 助教 / 刑事訴訟法

# 経営学研究科

経営学専攻  
 [ > 経営学プログラム > 経済学プログラム > ファイナンスプログラム ]

首都東京には、わが国を支える主要な大小の企業が集積し、新しい企業を創業していく潜在力がああります。それを現実の活力に転換するためには、マネジメントのあり方を探求する第一線の研究者と、組織を動かす高度な能力を有する経営管理者・起業家の養成が欠かせません。また、経済のグローバル化やインターネットの発達、環境への配慮などにより経済活動の仕組みも日々変化の中で、ビッグデータの蓄積とともに高度な経済学やファイナンスの専門的知識を用いた経済分析や資産運用・資金調達・金融リスク管理が求められています。

経営学研究科では、これらの社会的要請に応えるために高度な研究水準を維持し、その成果を学術的もしくは実践的な教育に反映させていきます。特に、博士前期課程には経営学・経済学・ファイナンスの3つのプログラムを設置します。博士後期課程では、これらの分野のさらに高度で最先端の研究に取り組む能力を養成します。

## 経営学専攻

入学定員 博士前期課程／50名、博士後期課程／5名  
 主な就職先 Nexperia B.V.、スパンション・イノベイツ、日本通運 など

### 経営学プログラム Business Administration Program



講義風景

博士前期課程の経営学プログラム(MBA)では、戦略的な思考能力と経営管理に関する高度な知識を有し国際的に活躍できる高度専門職業人と、経営学の諸理論を修得し新しい経営学を切り開いていける研究者を養成します。大学の学部で経営学を学ばなかった理工学系出身の社会人学生を積極的に受け入れ、そのキャリア開発と新産業・新事業の育成に貢献します。組織や戦略、マーケティング、会計学、経営科学など経営学に関する幅広い科目を提供します。いずれも少人数の授業で効果的に学習ができます。さらに演習や研究指導を通じて、専門領域についての知識と分析力、研究能力を培い、修士論文や課題研究論文の執筆を丁寧に指導します。授業は主に丸の内サテライトキャンパスで平日の夜間と土曜日に開講されます。

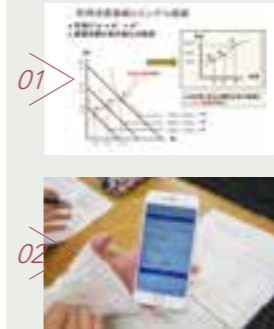
### 経済学プログラム Economics Program



博士前期課程の経済学プログラム(MEc)では、経済学に関する専門的な知識を有し、学術的あるいは実務的な課題について幅広い視野を持って研究を遂行できる能力を持った研究者および実務家を養成します。官公庁・シンクタンク・企業等において、経済活動の分析、経済政策の立案、企業の効率的な活動の提言を行うための知識・手法および課題への取り組み方を修得する他、経済学の諸理論を応用し、経済システムや経済社会の事象をグローバルな視点で歴史的な経緯も含めて資料を分析し、高度な歴史的知見の提供や問題解決のための政策提言を行う能力を身につけさせることを目標とします。

コア科目と呼ばれる、マクロ経済学・ミクロ経済学・計量経済学の高度な基幹理論の学修には数学・統計学が不可欠ですので、大学の学部で経営学・経済学を学ばなかった理工学系出身であっても経済学に関心を抱く社会人学生を積極的に受け入れます。授業は丸の内サテライトキャンパスで平日の夜間と土曜日に開講されます。

## TMU #EDUCATION



### 経営学、経済学の理論を本質的に理解し実社会での活用を追求

#### 01 実社会と連動する高度な専門教育

経営学研究科は、「経営学」「経済学」「ファイナンス」という3つのプログラムで構成されます。いずれも実社会と密接につながる研究活動を通して、経営学や経済学の研究者、および各分野に精通した実務家の養成を目指しています。特に実務経験を持つ社会人が多く学ぶ経営学プログラムや、東京都国際金融センター構想における人材育成を担うファイナンスプログラムでは、ビジネス上のニーズを直接反映した教育を展開しています。

#### 02 数理を重視し、理論の本質を理解する

首都大学東京における経営学、経済学は、数学的手法の重視を伝統としています。経済学での分析はもちろん、経営学でもマーケティングをサイエンスとして扱い、ビッグデータの活用など情報科学の数理を取り入れ、理論の本質と最先端をともに理解できるようにします。そのため経済理論を学ぶゼミでも、理論を使って日常の題材からモデルを作るなど、実社会での遂行を想定した研究を行います。

### ファイナンスプログラム Finance Program



博士前期課程のファイナンスプログラム(MF)では、国際的な金融センターで活躍できる、ファンドマネージャー、クオンツアナリスト、リスク管理者、トレーダー、金融商品開発者、金融政策立案者、財務アナリスト、財務コンサルタント、および事業会社の財務責任者として活躍する金融のプロフェッショナルを養成します。

「投資運用」「デリバティブ」「金融リスク」「コーポファイナンス」をコア分野として、関連する「数学」「数値計算」「統計学・データサイエンス」「経済学」「財務戦略」「経済戦略」分野の科目を効率的に配置したカリキュラムにより、ファイナンス・金融工学と企業経営の知識を体系的に学習します。また、ファイナンス演習(ゼミ)、ファイナンス考究(ケーススタディによる実践的学習)、修士論文の執筆は必修です。各分野の理論に精通した教員、実務経験を有する教員が時間をかけて指導できる体制を構築しています。また、海外からも研究者を招聘して、英語による講義を提供するなど密度の濃い教育を展開します。授業は前期と後期の二期制で、主に丸の内サテライトキャンパスで平日の夜間と土曜日に開講されます。

### 博士後期課程 Doctoral Program

経営学・経済学・ファイナンスの分野において、さらに高度で最先端の研究に取り組む研究者を養成するために博士後期課程を設置しています。

#### 教員一覧／専門分野

経営学研究科		
浅野 敬志 教授 / 財務会計論、経営分析	野口 昌良 教授 / 財務会計	高見 典和 准教授 / 経済思想史、経済学説史
足立 高德 教授 / 数理ファイナンス、金融リスク測定論	細海 昌一郎 教授 / 管理会計論、知的資本の実証的研究	竹内 祐介 准教授 / アジア経済史
飯星 博邦 教授 / 計量経済学、景気循環と金融政策の実証研究	松田 千恵子 教授 / 経営・財務戦略、資本市場論	竹原 浩太 准教授 / オプションプライシング、金融数値解法
飯村 卓也 教授 / ミクロ経済学	水越 康介 教授 / マーケティング	中山 厚穂 准教授 / マーケティング・サイエンス
岩間 俊彦 教授 / イギリス社会史、経済史、都市史、企業者史	村田 啓子 教授 / 日本経済論	西村 孝史 准教授 / 人的資源管理論、組織行動論
内山 朋規 教授 / 資産価格理論、投資運用理論	室田 一雄 教授 / 数理工学、オペレーションズ・リサーチ、最適化	松尾 隆 准教授 / 企業のオペレーションと戦略との関係
桑田 耕太郎 教授 / 経営学、組織論、企業組織の戦略的変革	室町 幸雄 教授 / 金融リスク管理	松岡 多利思 准教授 / マクロ経済学、金融論
芝田 隆志 教授 / 企業経済学、コーポレートファイナンス	山下 英明 教授 / オペレーションズ・リサーチ、待ち行列理論とその応用、経営工学	森 治憲 准教授 / 統計学
高尾 義明 教授 / 経営組織論	臨田 成 教授 / マクロ経済学	森口 聡子 准教授 / 数理計画法、組合せ最適化、オペレーションズ・リサーチ
竹田 陽子 教授 / 情報技術と経営戦略	渡辺 隆裕 教授 / ゲーム理論、ミクロ経済学	森本 脩平 准教授 / ミクロ経済学
田中 敬一 教授 / 数理ファイナンス、金利および信用リスク派生商品の価格付け	荒戸 寛樹 准教授 / マクロ経済学	八木 恭子 准教授 / 金融工学、コーポレートファイナンス、コンピュータショナルファイナンス
長瀬 勝彦 教授 / 意思決定論、実験経営学	小方 浩明 准教授 / 統計学	我妻 靖 助教 / ミクロ経済学、ゲーム理論
	小林 延人 准教授 / 日本経済史	澄田 範奈 助教 / 組合せ最適化
	高橋 勲徳 准教授 / ビジネスイノベーション	門傳 藍香 助教 / マーケティング、経営戦略論

# 理学研究科

数理科学専攻  
物理学専攻  
化学専攻  
生命科学専攻 [ > 生命科学領域 > 応用生命科学領域 ]

理学研究科は、数理科学、物理学、化学、生命科学という基礎科学分野の4つの専攻からなり、宇宙物理学、生命情報、超伝導理工学の3つの研究センターが所属しています。本研究科は、体系的・総合的な基礎知識の上に立ち、自然科学に関するさまざまな問題を発見し解決できる力を高めるための、特色ある教育プログラムを実践しています。特に、分野を超え、応用にもつながるような教育を積極的に提供し、それを通じて広い視野をもつ独創的な研究者や高度な専門家を育成することを目指しています。連携大学院の制度を活用して、国内の他の研究機関の研究者とも連携しながら、大学院の教育と最先端の研究に取り組んでいます。理学研究科の研究は世界のトップレベルにあり、基礎的・基礎的研究をはじめ、その成果をもとに新たな応用展開を図ろうとする研究や、国が支援する大きなプロジェクト研究も数多く進めています。

## 数理科学専攻

<http://www.se.tmu.ac.jp/mis/>

入学定員	博士前期課程 / 25名、博士後期課程 / 8名
主な就職先	日立システムズ、大日本印刷、ソフトバンク、エヌ・ティ・ティ・データ (NTTデータ)、NTTソフトウェア (NTTテクノクロス)、東日本電信電話 (NTT東日本)、東日本旅客鉄道 (JR東日本)、みずほ情報総研、新日鉄住金ソリューションズ、ドコモ・システムズ、教員 (東京都、栃木県、富山県) など

※本専攻の前身となる「数理情報科学専攻」の修了生実績



全国でも有数の蔵書数を誇る数理科学図書室

数理科学専攻は、代数学・幾何学・解析学・応用数理の各分野における体系的理論の習得と、課題解決型テーマへの主体的な取り組みを通じて、現代数理科学の最先端へ誘うことを目的としています。上記の4分野が有機的に連携する教育・研究体制のもとで、さまざまな数学的体験と思考訓練を積み重ねることにより、独創的な発想力を持つ研究者や、専門知識を備えた教育者など、柔軟性に富んだ人材を広く社会に輩出していくことを目指しています。また、自然科学の礎としての数学を意識し、本学大学院の他の専攻や外部の研究機関との交流を通じて、現代社会における課題の解決に貢献すると同時に、他分野の発想も理解することができる視野の広い人材の育成にも取り組んでいます。

### 教員一覧 / 専門分野

数理科学専攻		
内山 成憲 教授 / 暗号理論、計算数論	赤穂 まなぶ 准教授 / フレー理論・シンプレクティック幾何学	澤野 嘉宏 准教授 / 実函数論、再生核理論、フーリエ解析学
倉田 和浩 教授 / 偏微分方程式、非線形変分問題	石谷 謙介 准教授 / 確率論、数理ファイナンス	鈴木 登志雄 准教授 / 計算理論、数理論理学
黒田 茂 教授 / アフィン代数幾何学、多項式環論	上原 北斗 准教授 / 代数幾何学、高次元代数多様体の分類理論、連接層の導来圏	高津 飛鳥 准教授 / 微分幾何学、幾何解析
相馬 輝彦 教授 / トポロジーと力学系	内田 幸寛 准教授 / 数論アルゴリズム、数論幾何学、暗号理論	深谷 友宏 准教授 / 幾何学的群論・粗幾何学
高桑 昇一郎 教授 / 大域解析学、偏微分方程式論、多様体上の微分方程式の研究	小林 正典 准教授 / 代数幾何学、Calabi-Yau多様体・特異点とミラー対称性に関わる数理科学	村上 弘 准教授 / 数値計算、数式処理、並列計算
津村 博文 教授 / 解析数論、ゼータ関数	酒井 高司 准教授 / 微分幾何学、部分多様体論	横山 俊一 准教授 / 数式処理、計算数論、暗号理論
徳永 浩雄 教授 / 代数幾何学、複素多様体論		川崎 健 助教 / 可換代数
服部 久美子 教授 / フラクタル上の確率過程論		平田 雅樹 助教 / 力学系理論 (エルゴード理論)、確率論
横田 佳之 教授 / 位相幾何学		
吉富 和志 教授 / 放物型偏微分方程式		

## TMU #EDUCATION



専門分野の深化と異分野との連携により、新しい研究領域の開拓に挑む

- 01 主体的な研究ならびに異分野との協働を可能にする教育
- 02 未知の解明に挑む研究姿勢を養う

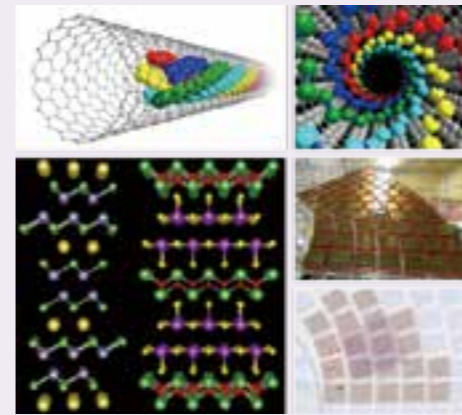
理学研究科では、数理科学、物理学、化学、生命科学の各分野について体系的かつ総合的に理解を深めるとともに、学生が主体的に研究することを通して力をつける教育を実践しています。その特徴は、自由な発想から独創的な自然科学の研究に取り組む過程で、問題発見力・解決力を養成しつつ、広い視野が獲得できることにあります。「大学院分野横断プログラム」などを通して、工学や医学など隣接するより実践的な異分野と協働する能力も身につけられます。

本研究科で行われる研究は、自然科学における未知の課題を対象にしたものです。例えば生命科学専攻での野生植物に関する研究は、絶海の島である小笠原諸島でのフィールドワークと最先端機器を用いたDNA解析を組み合わせることで植物の多様性を生み出した進化の謎に挑んでいます。これを解き明かすことは、野生植物に対する科学的理解を深めるだけでなく、野生生物や自然環境の適切な保全にも貢献します。このような広がりも含めた専門領域の可能性を追究できる研究者や専門家を育成します。

## 物理学専攻

<http://www.phys.se.tmu.ac.jp/>

入学定員	博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 10名
主な就職先	キヤノン、ソニー、パナソニック、ローム、エヌ・ティ・ティ・データ (NTTデータ)、横浜清風高等学校、警視庁、野村総合研究所、三菱重工業、村田製作所 など



物理学が対象とする様々な系

物理学は自然の根源を追究し、そこにひそむ法則を探るとともに、自然界や物質から得られた知識を応用する学問です。本専攻では、「素核宇宙理論」、「物性基礎理論」、「粒子宇宙物理」、「物性物理」の4つの研究グループ体制をとり、超ミクロな素粒子から日常的なサイズの物質系、そして超マクロな宇宙までの広範な系を対象として、理論・実験の両面から研究教育を推進しています。各研究グループは、グループ全体の協力体制を強化しつつ、テーマごとに研究室を構成し、研究教育を実施しています。さらに、理学研究科の他専攻はもちろん、他研究科の専攻や学域、外部の研究機関とも密接に協力しながら、活発な研究を展開していることも特長です。

### 教員一覧 / 専門分野

物理学専攻		
青木 勇二 教授 / トポロジカル電子物性と強相関電子系の超伝導・量子磁性の実験研究	石崎 欣尚 准教授 / X線天文学、宇宙の観測的研究および、X線天文衛星搭載用の極低温検出器の開発	大塚 博巳 助教 / 物性基礎論、統計力学、計算物理学
角野 秀一 教授 / 高エネルギー物理学、加速器を用いた素粒子実験やニュートリノ実験	江副 祐一郎 准教授 / 高エネルギー宇宙物理、星・惑星などの観測的研究および装置開発	北澤 敬章 助教 / 素粒子物理学理論、特に弦理論に基づく素粒子模型
首藤 啓 教授 / 非線形動力学、古典および量子カオス	門脇 広明 准教授 / 量子磁性物理、中性子散乱実験	汲田 哲郎 助教 / 素粒子実験物理学、ビーム物理学
田沼 肇 教授 / 原子分子物理学、meVからMeVまでのイオン衝突素過程	栗田 玲 准教授 / ソフトマター物理、非平衡物理	後藤 陽介 助教 / 新規機能性物質の開発と物性研究
堀田 貴嗣 教授 / 強相関電子系の磁性と超伝導の理論	服部 一匡 准教授 / 凝縮系理論、強相関電子系、臨界現象	坂本 浩一 助教 / 磁気共鳴を用いた有機結晶の電子状態の研究
政井 邦昭 教授 / 高エネルギー宇宙物理、銀河・銀河団の形成と進化に関する理論的研究	兵藤 哲雄 准教授 / ハドロン物理学、エキゾチックハドロン、共鳴状態の理論	佐々木 伸 助教 / 宇宙物理学、宇宙論、銀河間物質
真庭 豊 教授 / カーボンナノチューブの物性、低次元系の物理、ナノ構造物性	松田 達磨 准教授 / 強相関電子系およびトポロジカル物質等の物質開発と物性研究	田中 篤司 助教 / 非線形物理、量子論
森 弘之 教授 / 冷却原子系および低次元量子系の理論	水口 佳一 准教授 / 超伝導体や機能性材料の探索と物性研究	谷 茉莉 助教 / ソフトマター物理学、マクロな自然現象の物理学
安田 修 教授 / 素粒子・標準模型を超える物理、ニュートリノの物理	宮田 耕充 准教授 / 原子層物質 (二次元結晶) の開発、光・電子物性の研究	中西 勇介 助教 / 100万分の1スケールの極微小材料の探索と物性研究
柳 和宏 教授 / ナノ構造体の物性、光物性	KETOV, Sergei 准教授 / 超弦理論、量子重力理論、素粒子の基礎理論	東中 隆二 助教 / 強相関電子系の低温物性及び新奇物質探索
荒畑 恵美子 准教授 / 冷却原子気体の超流動現象および異方的超伝導現象に関する理論的研究	飯田 進平 助教 / 原子分子物理学、ビーム物理学	山田 真也 助教 / 宇宙X線天文学、X線検出器開発、観測的ブラックホール研究
		蓬田 陽平 助教 / ナノ物質の物性、物質科学

※ 2020年3月定年退職予定

# 理学研究科

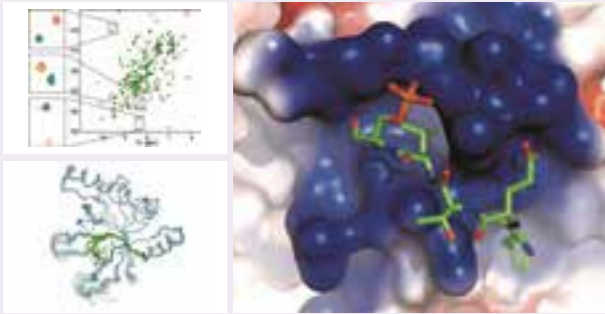
数理科学専攻 物理学専攻  
化学専攻  
生命科学専攻 [ > 生命科学領域 > 応用生命科学領域 ]

## 化学専攻

http://www.se.tmu.ac.jp/chem/

**入学定員** 博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 9名  
**主な就職先** ライオン、三井金属鉱業、デンカ生研、三菱ケミカル、関東化学、住友ゴム工業、コニカミノルタ、ペーパークレジット、凸版印刷、東芝テック、YKK AP、経済産業省 など

※本専攻の前身となる「分子物質化学専攻」の修了生実績



遺伝子を制御するタンパク質の分子構造を、最新の核磁気共鳴分光法で解析



ゼミの様子

実験の様子

化学とは、分子構造の変換を利用して新たな物質を創成し、その物質の構造、性質、反応性を探求することを目的とした、自然科学の中核を成すともいえる学問です。本専攻は分子物質化学専攻から名称変更し、化学の発展に寄与するという目的を引き継ぎました。一方、現代化学の応用範囲は化学材料や電子デバイスの開発のみならず、宇宙、地球環境、生命、医学・薬学など多様な分野に幅広く跨っています。本専攻では無機・分析化学系、有機・生物化学系、物理化学系の3つの研究分野を設定し、幅広い分野で先端的な研究活動を行っています。また大学院においては、深い専門性に立脚して科学の最先端にある高度な知識を身につけ、同時に、専門を超えた幅広い総合的な判断能力をもつ化学研究者や技術者を育成します。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 化学専攻

- |   |  |  |
|---|--|--|
| 伊藤 隆 教授 / NMR構造生物化学(生体高分子のNMRについての方法的な研究)           | 相垣 昭子 准教授 / 有機金属化学、触媒化学、光化学(高機能な有機金属触媒の開発)         | 三島 正規 准教授 / 構造生物化学(蛋白質の高次構造と機能についての研究)             |
| 菊地 耕一 教授 / 物理化学、物性物質化学                              | 大浦 泰嗣 准教授 / 放射化学、宇宙化学                              | 秋山 和彦 助教 / 核・放射化学                                  |
| 清水 敏夫 教授 / 有機合成化学、有機典型元素化学(新規な高周期典型元素化合物の合成と構造)     | 久富木 志郎 准教授 / 無機材料化学(放射化学的手法を用いた機能性ガラスセラミックスの開発と評価) | 阿部 拓也 助教 / 分子生物学                                   |
| 城丸 春夫 教授 / 物理化学(クラスター科学、イオン衝突・蓄積実験)                 | 好村 滋行 准教授 / バイオソフトマターの物理化学                         | 阿部 稜里 助教 / 理論化学(相対論的量子化学の開発と応用)                    |
| 杉浦 健一 教授 / 錯体化学                                     | 兒玉 健 准教授 / 物理化学                                    | 池谷 鉄兵 助教 / 有機構造生物化学                                |
| 竹川 暢之 教授 / 大気化学(エアロゾル粒子の生成過程)                       | 佐藤 総一 准教授 / 有機典型元素化学、高機能材料化学                       | 川端 庸平 助教 / 界面活性剤ゲルの散乱法、光学・共焦点顕微鏡を用いた構造研究とレオロジー物性評価 |
| 野村 琴広 教授 / 有機金属化学、合成化学、触媒化学(高性能分子触媒による環境調和型の精密合成反応) | 田岡 万悟 准教授 / 生化学(タンパク質とリボ核酸の高感度分析法の研究)              | 芝本 幸平 助教 / 分析化学・環境化学分野                             |
| 波田 雅彦 教授 / 量子化学                                     | 中谷 直輝 准教授 / 量子化学(遷移金属錯体の物性・反応の理論計算)                | 白井 直樹 助教 / 宇宙・地球化学、分析化学                            |
| 廣田 耕志 教授 / 生物化学(染色体機能の研究)                           | 西長 亨 准教授 / 構造有機化学(新規機能性π電子系の設計・合成・物性評価)            | 平林 一徳 助教 / 有機化学、有機金属化学                             |
| 山添 誠司 教授 / 無機化学、触媒化学、クラスター化学                        |  | 松本 淳 助教 / 物理化学、原子分子物理学                             |
|   |  | 三澤 健太郎 助教 / 大気化学、分子分光学                             |

## 生命科学専攻

http://www.biol.se.tmu.ac.jp/

**入学定員** 博士前期課程 / 40名、博士後期課程 / 16名  
**主な就職先** テルモ、中外製薬、シミック、サカタのタネ、クミアイ化学工業、日本アイ・ピー・エム(日本IBM)、NECソリューションイノベータ、日立システムズ、野村総合研究所、マイナビ、公務員、中学・高校教員 など

### 生命科学領域 / 応用生命科学領域 Section of Biology / Section of Biomedicine and Biotechnology



ニワトリの胚

首都大学東京生命科学専攻の最大の特長は、生物学・生命科学の多様な分野の研究を行っている教員がそろっていること、すなわち、教員の多様性が非常に高いことです。遺伝子、細胞(遺伝学、細胞学、生理学、生化学等)から、集団、種、生態系(生態学、系統分類学、進化生物学等)まで様々なレベルの、そして材料も微生物から、高等動物、高等植物まで、様々な生物を用いて研究を行っている教員が本専攻にはいます。

教員の多様性が高いことは、本専攻の大学院生が生命科学の多様な分野をそれぞれの専門家から学べることに直結します。それに加えて、大学院生が生命科学のどのような分野に興味を持ったとしても、それに何らかの接点の見いだせる教員がいることでもあります。

さらに本専攻には、基礎的な生物学研究を行う領域(生命科学領域)に加え、応用につながる研究を行う領域(応用生命科学領域)も設置され、学外の研究機関で生命科学のより広い領域の研究を行うこともできます。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 生命科学専攻 > 生命科学領域

- |   |  |
|---|--|
| 相垣 敏郎 教授 / 遺伝学、分子生物学、ゲノム科学、老化と寿命            | 坂井 貴臣 准教授 / 神経遺伝学(本能行動および学習・記憶の分子遺伝学的研究)     |
| 岡本 龍史 教授 / 植物発生学、植物生殖学                      | 菅原 敬 准教授 / 植物系統分類学、花生態学                      |
| 加藤 潤一 教授 / 分子遺伝学、バクテリアのゲノム及び細胞増殖機構、生存機構の研究  | 高鳥 直士 准教授 / 発生生物学(脊索動物の胚葉運命分離機構)             |
| 川原 裕之 教授 / 細胞生物学・生化学(細胞の増殖・分化・恒常性維持の分子機構)   | 高橋 文 准教授 / 進化遺伝学(種分化の分子機構、集団遺伝学)             |
| 鈴木 準一郎 教授 / 植物生態学、草本植物を主な対象とした個体群・群集、実験生態学  | 福田 公子 准教授 / 発生生物学、消化管の分化の分子機構                |
| 田村 浩一郎 教授 / 進化遺伝学、ゲノム科学、バイオインフォマティクス        | 福田 公子 准教授 / 発生生物学、消化管の分化の分子機構                |
| 花田 智 教授 / 環境微生物学、光合成細菌の分離培養、細菌系統分類          | CRONIN, Adam 准教授 / 行動生態学、進化生態学               |
| 林 文男 教授 / 生態学、行動学、進化学                       | TANK, Marcus 准教授 / 環境微生物学、光合成細菌の分離培養         |
| 春田 伸 教授 / 微生物生態学、環境微生物学、応用微生物学              | THIEL, Vera 准教授 / 神経科学、細胞生物学、メタゲノム解析         |
| 村上 哲明 教授 / 植物分類学・進化学(植物と菌類の生物学的種分類、分子系統地理学) | 浅田 明子 助教 / 神経生化学                             |
| 安藤 香奈絵 准教授 / 神経科学、細胞生物学、分子生物学、神経変性          | 朝野 維起 助教 / 昆虫免疫学、昆虫生化学、遺伝学、および昆虫の進化          |
| 江口 克之 准教授 / 動物系統分類学、生物地理学                   | 加藤 英寿 助教 / 植物系統分類学、島嶼生物学、生物多様性情報学            |
| 得平 茂樹 准教授 / 分子生物学、分子生理学、微生物ゲノム学             | 木下 温子 助教 / 植物発生学、植物生理学                       |
| 岡田 泰和 准教授 / 進化生態学、生態発生学(動物の社会行動、性形質の進化)     | 齋藤 太郎 助教 / 神経生化学                             |
| 角川 洋子 准教授 / 植物系統分類学、進化生物学                   | 清水 晃 助教 / 動物系統分類学・比較行動学・進化学                  |
| 鐘ヶ江 健 准教授 / 植物分子細胞生物学(植物の光環境応答分子機構)         | 武尾 里美 助教 / 生殖と発生の遺伝学、分子生物学                   |
| 黒川 信 准教授 / 神経生物学、行動の神経支配機構                  | 立木 佑弥 助教 / 進化生態学、数理生物学                       |
|   | 野澤 昌文 助教 / 分子進化学、ゲノム進化学(特に性染色体の進化機構)         |
|   | 古川 聡子 助教 / 病原糸状菌と植物の相互作用に関する研究、新病害の探索と原因菌の同定 |
|   | 横田 直人 助教 / 細胞生物学・発生生物学                       |

#### 生命科学専攻 > 応用生命科学領域

- |   |  |
|---|--|
| 相垣 敏郎 教授 / 遺伝学、分子生物学、ゲノム科学、老化と寿命              | 石神 昭人 教授 / 老年学、老化制御、高齢者医療                    |
| 岡本 龍史 教授 / 植物発生学、植物生殖学                        | 伊藤 嘉浩 教授 / 医療応用のための生体材料の設計と創成                |
| 加藤 潤一 教授 / 分子遺伝学、バクテリアのゲノム及び細胞増殖機構、生存機構の研究    | 川原 裕之 教授 / 細胞生物学・生化学(細胞の増殖・分化・恒常性維持の分子機構)    |
| 齊藤 実 教授 / 神経科学(学習記憶、認知機構の解明)                  | 原 孝彦 教授 / 幹細胞生物学、血液再生医療、がん治療、ケモカイン           |
| 安藤 香奈絵 准教授 / 神経科学、細胞生物学、分子生物学(神経変性疾患の分子メカニズム) | 坂井 貴臣 准教授 / 神経遺伝学(本能行動および学習・記憶の分子遺伝学的研究)     |
| 瀬尾 光範 准教授 / 植物生理学、分子生物学、生理活性物質科学              | 高鳥 直士 准教授 / 発生生物学(脊索動物の胚葉運命分離機構)             |
| 高鳥 直士 准教授 / 発生生物学(脊索動物の胚葉運命分離機構)              | 松田 憲之 准教授 / 細胞生物学・生化学(蛋白質やオルガネラの分解機構)        |
| 浅田 明子 助教 / 神経生化学                              | 朝野 維起 助教 / 昆虫免疫学、昆虫生化学、遺伝学、および昆虫の進化          |
| 木下 温子 助教 / 植物発生学、植物生理学                        | 齋藤 太郎 助教 / 神経生化学                             |
| 武尾 里美 助教 / 生殖と発生の遺伝学、分子生物学                    | 古川 聡子 助教 / 病原糸状菌と植物の相互作用に関する研究、新病害の探索と原因菌の同定 |
| 立木 佑弥 助教 / 進化生態学、数理生物学                        | 横田 直人 助教 / 細胞生物学・発生生物学                       |

# 都市環境科学研究科

都市環境科学専攻  
 > 地理環境学域 > 都市基盤環境学域  
 > 建築学域 > 環境応用化学域  
 > 観光科学域 > 都市政策科学域

都市環境科学研究科では各分野において世界をリードする国際的研究活動を展開しています。都市環境を構成する「人間」・「物質」・「エネルギー」・「情報」・「人工物」・「自然」の各要素について、観測と解析を基礎にその相互作用を明らかにします。新たに公共政策の分野を加え、任意の空間・時間における各要素の変動予測・設計・制御が可能となる方法論の開発と社会環境を制御する政策・制度の分析により、持続・発展する都市を構築しうる科学体系としての都市環境科学の確立を目指します。

都市環境の構成要素に関わる専門的な研究領域とそれらが融合した新しい領域を対象に、先進的な研究を推進し、課題の発見・解決によりメガシティの将来を先導する人材の育成を行っています。

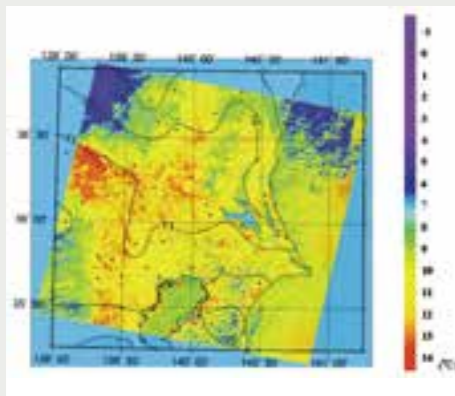
## 都市環境科学専攻

### 地理環境学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/>

入学定員 博士前期課程 / 15名、博士後期課程 / 5名

主な就職先 応用地質、国際航業、日本工営、日本気象協会、国際協力機構、東京都庁、茨城県庁、駒澤大学高等学校 など



関東地方の気温分布(等値線)と地表面温度の分布(カラー)

地理環境は、自然環境と人工環境とからなり、都市スケールから、地方スケール、国土スケール、大陸スケール、地球スケールに至るまで、さまざまな空間的広がりをもっています。地理環境学は、過去から現在に至る地理環境と人間のダイナミックな相互関係について、特定の一つの空間スケールで研究するだけでなく、異なる空間スケールで起こっている現象相互の関連性を視野に入れながら解明することを目指しています。

地球温暖化や経済のグローバル化など、世界的規模で進行する現象をローカルな地域で研究するとき、この視点は特に重要になります。空間スケールの違いによる地理的現象の発現形態やメカニズムの相違、および同一空間スケールにおける地域差に焦点を当ててきた従来の地理学に、こうした新しい視点を加えることにより、都市や環境の研究をさらに深化させることができます。

地理環境学域は地形・地質学、気候学、環境地理学、地理情報学、都市・人文地理学の5研究室で、これらの課題に関わるテーマに取り組んでいます。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 地理環境学域

鈴木 毅彦 教授 / 地形学、第四紀学、火山学、火山灰編年学  
 高橋 日出男 教授 / 都市～大陸スケールの降水現象、都市気候・局地風系など地域の大気環境  
 松本 淳 教授 / モンスーン気候学、気候変動、気候環境論  
 松山 洋 教授 / 水文気象学、地理情報科学

若林 芳樹 教授 / 都市地理学、行動地理学、GIS(地理情報科学)  
 渡邊 真紀子 教授 / 土壌地理学、環境動態解析  
 川東 正幸 准教授 / 土壌生態学、環境化学、物質循環  
 白井 正明 准教授 / 堆積学、第四紀地質学、海洋地質学  
 滝波 章弘 准教授 / 地誌学、表象分析、地域文化論、フランス語圏研究

矢野 直人 准教授 / 都市地理学、計量地理学  
 石村 大輔 助教 / 変動地形学、第四紀地質学  
 泉 岳樹 助教 / 都市気候学、地理情報科学  
 高橋 洋 助教 / 気象学、気候システム学、気象・気候シミュレーション(モデリング)  
 坪本 裕之 助教 / 人文地理学  
 中山 大地 助教 / 自然地理学、地理情報科学

## TMU #EDUCATION



世界最大規模の都市・東京を拠点に確立を目指す新しい科学

01 > 自然・人文・社会科学を包括する学際性

都市環境科学とは、生活と自然環境の調和を図り、安全で機能的な都市空間を創造・維持するため、首都大学東京が確立を目指す科学。その領域は、理学や工学に加え、人文・社会科学も包括する学際性を特徴とし、取り組む課題は都市機能と環境の関連性、エネルギーの高度利用、老朽化するインフラの更新、少子高齢化対応など多岐にわたり、都市環境科学の確立を担うための、多様な「引き出し」を追究します。

02 > 世界の都市が注目する研究の成果

建物の表面温度や空調の排熱によるヒートアイランド現象の抑制にも、都市空間におけるエネルギー利用の効率化や高機能的な建築材料の開発など、さまざまな要素が関わります。世界最大規模の都市である東京を拠点とした研究活動は、国際的にトップクラスの水準にあり、世界中の都市が研究の成果に注目しています。海外からの留学生も多く、英語で行う科目もあるなど、国際性に富むことも都市環境科学研究科の特徴です。

### 都市基盤環境学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/civil/>

入学定員 博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 4名

主な就職先 東京都庁、静岡県、水資源機構、鉄道・運輸機構、首都高速道路、中日本高速道路(NEXCO中日本)、東日本旅客鉄道(JR東日本)、西武鉄道、京王電鉄、鹿島建設、大林組、大成建設、鉄建建設、三井住友建設、オリエンタルコンサルタンツ、日本工営 など



都市基盤環境学(Civil & Environmental Engineering)は、その英語名が示すとおり、市民のための学問であり、「美しい国土・都市の建設」、「安全にして安心出来る生活環境の構築」、「豊かな社会基盤の形成」を目的としています。その役割は、社会基盤の計画・構築・運用・維持管理、都市環境、自然環境の維持・保全、さらに人々の生命や資産を災害から守る防災など広範囲に及びます。

本学域では、「社会基盤」、「環境システム」、「安全防災」の3つの観点から、都市基盤環境学について体系的に研究しています。そして、研究・教育活動を通して、主体的に課題を発掘し、それを解決していくことができる人材を育成しています。国内外の研究機関との連携研究や共同講義も積極的に行われていて、多くの研究成果が東京都をはじめ、広く社会に還元されています。東京は世界でも屈指の大都市です。東京都が持つ課題を克服していくことは、東京都に貢献するだけでなく、他の地域や世界の国々に対して常に先駆的に情報を発信することにも繋がります。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 都市基盤環境学域

砂金 伸治 教授 / トンネル工学、地下空間工学、岩盤力学  
 宇治 公隆 教授 / コンクリート材料学、コンクリート構造学。最近は耐久性、補修・補強に注力  
 梅山 元彦 教授 / 海岸工学、港湾工学、海洋工学  
 小根山 裕之 教授 / 交通工学、交通環境、交通計画、交通シミュレーション  
 河村 明 教授 / 水文学及び水資源工学  
 村越 潤 教授 / 橋梁工学、鋼構造学  
 横山 勝英 教授 / 環境水理学

荒井 康裕 准教授 / 上水道工学、環境システム  
 石倉 智樹 准教授 / 土木計画学、経済分析  
 上野 敦 准教授 / コンクリート工学、コンクリートにおける材料科学  
 小田 義也 准教授 / 物理探査、地震工学  
 酒井 宏治 准教授 / 上水道、下水道、水質保全、水域管理  
 中村 一史 准教授 / 構造工学、橋梁工学、維持管理工学  
 吉嶺 充俊 准教授 / 土質力学、特に地盤の液状化

天口 英雄 助教 / 水工水理学、水文学  
 大野 健太郎 助教 / コンクリート材料学、コンクリート構造物の維持管理(非破壊検査)  
 岸 祐介 助教 / 構造工学、耐震工学、地震防災  
 新谷 哲也 助教 / 水工水理学、数値流体力学  
 土門 剛 助教 / トンネル力学、地下空間工学  
 柳原 正実 助教 / 交通工学、交通流解析、運転挙動モデリング

# 都市環境科学研究科

- 都市環境科学専攻
- > 地理環境学域
  - > 都市基盤環境学域
  - > 建築学域
  - > 環境応用化学域
  - > 観光科学域
  - > 都市政策科学域

## 都市環境科学専攻

**建築学域** <http://www.ues.tmu.ac.jp/arch/>

入学定員 博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 4名

主な就職先 総合建設業、組織建築設計、建材等メーカー、デベロッパー、官公庁 など



エネマネハウス2017 首都大学東京 ZEHビレッジ アジア蒸暑気候下の町屋



エネマネハウス2018 竣工・公開

建築学域では、「持続可能社会における安全で快適な建築都市空間を美しく構築する」ための研究の推進およびそれを担う人材育成を目的とします。建築ストックを適切に維持管理しつつ安全・快適・魅力的かつ環境負荷の少ない建築都市空間を創出するための研究、および今後顕在化する建築物の諸問題に対する広範囲な研究を行い、学術および社会に貢献します。また、建築に関する幅広い理論や技術を修得し、建築の問題を解決する能力および高い専門性を持つ人材を育成します。

本学域では、建築計画・都市計画、建築歴史・意匠、建築生産・材料、建築構造、建築環境を研究分野とする「基盤研究コース」で、問題解決のための先進的かつ実践的な研究に取り組みます。また「プロジェクト研究コース」では、都市や建築の抱える複雑な問題を把握し解決できる実践能力の養成を目的に、個々の専門分野に通曉した複数の教員がプロジェクトチームを組織し、具体的なプロジェクトを通して指導を行います。修了要件を満たすと、修士(工学、建築学)、博士(工学、建築学)の学位を取得できます。

左に示すエネマネハウス2017は、ゼロエネルギーハウスの設計・建設コンテストであり、全国からの応募・コンペの結果として首都大学東京の提案が採択されました(5チームが選抜された)。建築学域が5年間行ってきたアジア高度研究の集大成として、アジアへの普及展開を見据えたゼロエネルギーハウスの企画・設計を学生が主体として行いました。このような実践的な経験を得る機会があることも、建築学域の特徴です。

**環境応用化学域** <http://www.ues.tmu.ac.jp/apchem/>

入学定員 博士前期課程 / 50名、博士後期課程 / 6名

主な就職先 信越化学工業、大日本印刷、トヨタ自動車、日清オイログループ、三井化学、三菱ケミカル、首都大学東京 など

※本学域の前身となる「分子応用化学域」の修了生実績



原子レベルの観察を可能とする最新鋭の透過型電子顕微鏡



論文発表終了後、スタッフ・学生とともに

本学域では、地球環境と共生しながら、有限な地球資源やエネルギーのもとで人類や社会が持続的に発展していくために、応用化学や材料化学における先導的な役割を果たし得る創造的かつ問題発見・解決能力のある技術者・研究者の育成を目的としています。特に、物質やエネルギーが高密度に集積した都市における諸問題を解決するために必要となる化学的な基礎学問の習得を目指す教育を展開しています。また、本学域では自主性を重んじ、問題の解決能力に加えて問題の発見能力を養うことに重点を置いた研究教育を行っています。環境科学、環境分析化学、高分子化学、有機材料化学、生命化学、錯体化学、無機材料化学、電気化学、化学工学、表面化学、光化学、触媒化学、大気化学などの研究分野をベースに環境、エネルギー、バイオ、ナノテクノロジーをキーワードとする世界最先端の研究を通じ、幅広い視野を持った21世紀をリードする技術者・研究者の育成を目指します。国内外の著名な研究者を招いたコロキウムも毎年10回程度開催し、世界最先端の研究に触れる機会を数多く提供しています。

### 教員一覧 / 専門分野

建築学域		
北山 和宏 教授 / 鉄筋コンクリート構造、耐震設計論、鉄筋コンクリート建物の力学特性と耐震性能	竹宮 健司 教授 / 医療施設計画、高齢者福祉施設、地域生活支援施設、環境行動研究	高木 次郎 准教授 / 鋼構造、構造設計、構造システム開発
橋高 義典 教授 / 建築材料学、緑化材料、内装材料、高性能コンクリート、外装材料の美観維持	角田 誠 教授 / 建築生産、ストックマネジメント、建築構成材のリユースシステム	多幾山 法子 准教授 / 木質構造、建築振動学、建築保全再生学
小泉 雅生 教授 / 建築設計、建築意匠	永田 明寛 教授 / 建築環境学、建築の熱湿気環境と熱負荷	鳥海 基樹 准教授 / 都市計画
小林 克弘 教授 / 建築設計、建築意匠、西洋建築史	山田 幸正 教授 / 建築史(日本建築史・東洋建築史)、建築保存	猪熊 純 助教 / 建築設計
須永 修通 教授 / 建築環境学、環境共生住宅・建築、パッシブデザイン、自然エネルギー利用、太陽熱利用、室内気候調整、温熱感、温熱快適性、放射暖冷房、床暖房	吉川 徹 教授 / 都市計画、都市解析、地理情報システム	木下 央 助教 / 建築史、意匠
	一ノ瀬 雅之 准教授 / 建築設備、都市・建築環境、建築設備システム開発・検証	國枝 陽一郎 助教 / 建築材料、建物解体、建築・解体廃棄物利用
	壁谷 寿一 准教授 / 建築防災学、耐震構造、鉄筋コンクリート構造	讃岐 亮 助教 / 都市計画、都市解析、施設立地・配置分析、GISを活用した都市空間分析
		松本 真澄 助教 / 住居学
		山村 一繁 助教 / 建築構造・材料

### 教員一覧 / 専門分野

環境応用化学域		
内山 一美 教授 / 分析化学、化学ナノ造形、微小領域の化学、ナノ液滴	立花 宏 教授 / 量子化学計算による光化学プロセスの現象解明、化学情報学	中嶋 秀 准教授 / 分析化学、マイクロ化学分析システム( $\mu$ TAS)、クロマトグラフィー、電気泳動、化学センサ、バイオセンサ
金村 聖志 教授 / 電池、燃料電池、電気化学、セラミックス材料化学、生体関連セラミックス	益田 秀樹 教授 / 電気化学、電気化学プロセスにもとづく微細加工とその応用を中心に研究	柳下 崇 准教授 / 材料化学
川上 浩良 教授 / 高分子化学、機能性分離材料、固体電解質膜、ナノファイバー工学、バイオマテリアル、エビジェネティクス工学	朝山 章一郎 准教授 / 生体材料化学(バイオマテリアル)、医用高分子、生化学、生体分子工学	山登 正文 准教授 / 材料化学、構造・機能材料
久保 由治 教授 / 有機合成化学、超分子化学、機能性色素	石田 玉青 准教授 / 触媒化学	Mulyana Jacob Yan 准教授 / 錯体化学
穴戸 哲也 教授 / 触媒化学、表面科学、水素エネルギー	梶原 浩一 准教授 / 無機材料化学、光・電子機能セラミックス・ガラス、深紫外光学材料	稲垣 佑亮 助教 / 有機金属化学、典型元素化学
首藤 登志夫 教授 / 水素エネルギー、自動車動力システム、燃料電池、エンジン、燃焼、代替燃料	加藤 俊吾 准教授 / 環境化学、大気化学、東アジア大気環境、海洋と大気の相互作用	嶋田 哲也 助教 / 物理化学
瀬高 涉 教授 / 有機物理化学	佐藤 潔 准教授 / 複素環合成、分子認識化学、構造有機化学	西薮 隆平 助教 / 超分子化学 分子認識化学 ナノ材料化学
高木 慎介 教授 / 光化学、ナノ構造化学、機能性色素材料、ナノ層状化合物の化学	武井 孝 准教授 / 表面化学、セラミックス化学、触媒化学	乗富 秀富 助教 / バイオプロセス工学、生体触媒化学、ナノ材料
	田中 学 准教授 / 高分子化学、機能性高分子、エネルギー材料	三浦 大樹 助教 / 触媒化学
		棟方 裕一 助教 / 電気化学、燃料電池、リチウム電池、構造化セラミックス材料

# 都市環境科学研究科

都市環境科学専攻  
 > 地理環境学域 > 都市基盤環境学域  
 > 建築学域 > 環境応用化学域  
 > 観光科学域 > 都市政策科学域

## 都市環境科学専攻

### 観光科学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/index.html>

**入学定員** 博士前期課程 / 15名、博士後期課程 / 5名  
**主な就職先** 東日本旅客鉄道 (JR東日本)、ANAセールス、ジェイアール東日本商事、星野リゾートマネジメント、オリエンタルコンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、日本交通、エイチ・アイ・エス、警察庁、東京都庁、横浜市役所 など



野外実習の様子

本学域は、「観光」の資源やフィールドとなる都市・集落や自然地域の諸環境の保全や改善、適正利用を進めるため、また、観光を活用して地域の魅力や価値の向上、地域経済の向上といった地域づくりを進めるための教育・研究に取り組んでいます。理学的・工学的な知識と技術を用いて、地域の現象解明や観光者の行動・意識の解説を行い、計画立案、観光振興の実践活動を担えるジェネラリストや専門家、教育者、研究者を育成します。

特に本学域では、産学官連携による共同研究を取り入れ、企画・提案者の立場で、地域社会との関わりの中で「観光地の診断から計画、実践まで」を研究することや、積極的に大学院生の海外派遣や留学生の受け入れを行い、国際性や広い視野も持ちながら、観光やその環境をめぐる課題を調整し、解決することを目指します。

本学域では、自然環境を利用する観光を通じた持続的な自然環境の利用・管理への貢献を目指す自然環境マネジメント領域、都市や集落地域の空間や建造物、そこで生まれる文化を活用する観光を通じた地域環境の魅力向上を目指す地域計画・マネジメント領域、観光者、企業・組織などの心理や行動の分析に基づいた観光者へのサービスと情報の提供を目指す行動・経営科学領域が有機的に連携しながら分野横断型の研究教育を行います。



修士論文最終発表会の様子

### 教員一覧 / 専門分野

観光科学域

川原 晋 教授 / 都市・地域デザイン、観光まちづくり、観光地域マネジメント・事業論	大澤 剛士 准教授 / 生物多様性情報学、応用生態学、保全科学	小笠原 悠 助教 / 社会システム工学 (レベニューマネジメント、オペレーションズ・リサーチ)
菊地 俊夫 教授 / 人文地理学、自然ツーリズム学 (ルーラルツーリズム、エコツーリズム、環境資源利用、環境保全)	岡村 祐 准教授 / 都市デザイン、都市計画、観光まちづくり、観光地域史	片桐 由希子 助教 / ランドスケープ計画、地域計画
清水 哲夫 教授 / 交通学、社会基盤計画学、観光計画学	倉田 陽平 准教授 / 地理情報科学、空間情報処理、観光情報システム	杉本 興運 助教 / 観光地理学、応用地理学、地理情報学
沼田 真也 教授 / 保護地域管理、熱帯生物学、都市生態学	直井 岳人 准教授 / 観光学 (観光地環境評価、観光者心理)	高木 悦郎 助教 / 森林動物学、個体群生態学
	日原 勝也 准教授 / 経営学、ミクロ経済学、観光政策、交通政策	野田 満 助教 / 農村計画、都市・地域デザイン、観光まちづくり

### 都市政策科学域

<https://www.usp-tmu.jp/>

**入学定員** 博士前期課程 / 15名、博士後期課程 / 5名  
**主な就職先** 東京都庁、横浜市役所、世田谷区役所、都市再生機構 (UR都市機構)、西日本旅客鉄道 (JR西日本)、京王電鉄、大林組、類設計室、GA technologies、地域まちづくり研究所 など

※本学域の前身となる「都市システム科学域」の修了生実績



東日本大震災・住宅再建ワークショップでのアウトリーチ活動

都市政策科学域は、ダイナミックな変化を遂げる現代の都市を総合的に捉え、安全・安心・快適な都市のあり方を、空間・制度・社会など種々の面から解明・考究し、持続可能な都市づくりを実践できる人材を育成します。現代の都市の現象を科学的に解析する技術や研究手法、各種の領域で展開される公共政策に対する多角的な知見を深める理論的・学際的な科目に加え、都市政策を担う公的機関や民間事業者、NPO、地域コミュニティ組織などとの協働研究に基づく実践的な教育活動や、協定を結ぶアジアの大学からの学生とともに学び合うプログラムも提供されます。そして、博士前期・後期課程に所属する全学生が参加し、各分野の専門家である全教員が指導を行うと共に学生相互での議論を通じて知見を高め合うセミナーの開講など、分野横断的な研究指導も行われます。なお、博士前期課程入学試験では、一般選抜入試に加えて、実務経験を基に研究をしようとする社会人学生を対象に「社会人特別入試」を実施します。また、同じく博士前期課程においては、最先端の研究を究めたい学生から、実践的な知識・能力を習得したい学生までの存在を考慮し、学位論文に代えて、特定の課題についての研究の成果を提出することによっても修了することができます。



中国・韓国の学生と共に考える「グローバル都市東京研究」

### 教員一覧 / 専門分野

都市政策科学域

婁庭 伸 教授 / 都市計画、まちづくり、都市デザイン、都市計画制度、ワークショップ手法	伊藤 史子 教授 / 都市・地域・環境の計画と評価、都市・地域解析、都市環境心理・行動分析	松井 望 教授 / 行政学、都市行政論
朝日 ちさと 教授 / 環境経済学、都市・地域経済学、政策評価、費用便益分析、社会資本整備の評価	奥 真美 教授 / 都市政策法務、環境法、行政法	和田 清美 教授 / 都市社会学、コミュニティ論
市古 太郎 教授 / 都市防災学、災害復興史、大都市計画論、コミュニティ防災、防災科学	白石 賢 教授 / 法と経済学、経済刑法	金子 憲 准教授 / 財政学、公共経済学
	玉川 英則 教授 / 都市解析、都市計画、GIS (地理情報システム) を応用した都市の空間解析、都市の分析論と計画論の接点に関する研究	杉原 陽子 准教授 / 健康社会学、高齢者福祉、社会老年学、公衆衛生学
		長野 基 准教授 / 行政学、地方自治、ローカル・ガバナンス
		山本 薫子 准教授 / 都市社会学、地域社会学、大都市インナーエリア、質的社会調査
		高道 昌志 助教 / 都市計画、都市史、まちづくり



# システムデザイン研究科

システムデザイン専攻  
 > 情報科学域 > 航空宇宙システム工学域  
 > 電子情報システム工学域 > インダストリアルアート学域  
 > 機械システム工学域

本研究科では、情報科学域、電子情報システム工学域、機械システム工学域、航空宇宙システム工学域、インダストリアルアート学域の5つの学域の博士前期、博士後期課程の教育研究プログラムを提供し、各学域でのシステムデザイン教育ならびに先駆的・創造的な研究活動を通して、知的社会を支える高度な専門知識や技術力を有する研究者およびエンジニア／クリエイターを育成します。また、時代を先導する様々なシステムを立案・実現するために必要な「システムデザイン力」を身につけるための研究プロジェクト演習や、実社会でのニーズや企業での開発研究の実際などを理解するためのシステムデザイン特論を開講するなど、実践的な人材育成教育にも力を注いでいます。

各学域では、学位論文の研究進捗状況についての公開期末評価を義務付けており、学位の質保証につながる指導を行っています。

## システムデザイン専攻

### 情報科学域

<http://cs.sd.tmu.ac.jp/>

**入学定員** 博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 6名

**主な就職先** エヌ・ティ・ティ・データ (NTTデータ)、NTTコミュニケーションズ、日本電気 (NEC)、キャノン、KDDI、ソフトバンクグループ、デンソー、トヨタ自動車、日産自動車、日本総合研究所、野村総合研究所、パナソニック など

※本学域の前身となる「知能機能システム学域」「情報通信システム学域」「経営システムデザイン学域」の修了生実績



五感情報提示型のバーチャルリアリティ装置による臨場感の実験

情報技術は、今やあらゆる社会的活動と生活の隅々にまで浸透し、その効率化と質の向上に劇的な変化を生み出しながら、引き続き目まぐるしい速度で技術革新を続けています。一方で、情報システムの安定運用やセキュリティの脅威に関わるリスク管理など、未知の技術課題が次々に現れつつあります。情報科学域では、基礎学術と専門的知識を十分に修得させることで、革新し続ける情報技術の発展を支え、リスクに適切に対処する決断力を持った、グローバルに活躍できる技術者・研究者の育成を目指しています。

本学域では、次のような学生を求めています。

1. 先進的な情報科学分野の知識・技術に幅広く興味を持っている人
2. 情報処理技術、情報通信技術、それらの基盤となるシステム技術における新しい創造に対して主体的に取り組む意欲を持っている人
3. 情報技術の基礎理論系、アーキテクチャ系、コンテンツ系に関する専門的基礎知識をしっかりと身につけている人

### 電子情報システム工学域

<http://www.comp.sd.tmu.ac.jp/eecs/>

**入学定員** 博士前期課程 / 60名、博士後期課程 / 6名

**主な就職先** 富士通、日立製作所、日本電気 (NEC)、三菱電機、SCSK、エヌ・ティ・ティ・データ (NTTデータ)、東日本電信電話 (NTT東日本)、ソフトバンクグループ、日本ユニシス、富士ゼロックス、ヤフー、リコー、野村総合研究所 など

※本学域の前身となる「電気電子工学専攻」「情報通信システム学域」「経営システムデザイン学域」の修了生実績



レーザーを用いた大気環境計測の実験

電子情報システム工学は、情報、通信、エレクトロニクス、エネルギーに代表されるように、現代社会を支える基盤技術であると同時に、先端・フロンティア技術でもあります。新たな技術開発においても、電子情報システム工学の果たす役割は今後ますます重要なものとなることが予想されます。

このような背景を踏まえ、本学域では、電子情報システム工学分野の高度な専門教育と先端的課題研究を通して、「情報システム技術及び電気電子通信システム技術に関する体系的・総合的知識基盤を持つ創造的な技術者・研究者を育成すること」を基本理念としています。そして、「情報ネットワークシステム」、「通信システム」、「エネルギー情報システム」の3領域を電子情報システム工学における学問体系の主要な柱と位置づけ、これらの体系的・総合的知識に基づく高度な実践力、課題解決・発見能力、高い倫理観・使命感を兼ね備えた技術者・研究者の育成をめざしています。

## TMU #EDUCATION



01

システムという全体と社会的需要を考察する先端研究を展開

01 研究者も想像しない領域に広がる可能性

航空宇宙システム工学の取り組みに、100kg未満の超小型人工衛星に搭載する推進系の開発と、人工流れ星の実現に向けた研究があります。人工流れ星は新しいエンターテインメントの開発として着手した研究でしたが、流星が光る高層大気層の詳細なデータを収集し地上の気象変動への影響を調べる等、サイエンスとしてのミッションが加わる予定です。このように一つの研究が想像を超えた領域に拡大する可能性もあります。



02

02 知識や技術を統合し、先駆的領域を開拓

システムデザインは総合工学。社会の課題解決やニーズへの対応のために必要とする知識や技術を統合し、先駆的な領域を開拓します。人工流れ星の例が示すように、本研究科で取り組む全ての研究は、そこに関わる多種多様な分野のうちいずれかが進展することで、新しい姿を表出する可能性を秘めています。システムという全体を常に考えつつ、社会の要請に応えたり需要を触発したりしながら、システムデザインを追求します。

### 機械システム工学域

<http://www.comp.sd.tmu.ac.jp/mech/>

**入学定員** 博士前期課程 / 65名、博士後期課程 / 6名

**主な就職先** トヨタ自動車、本田技研工業、いすゞ自動車、SUBARU、スズキ、デンソー、川崎重工業、三菱重工業、IHI、日本精工、荏原製作所、ダイキン工業、日立製作所、富士電機 など

※本学域の前身となる「機械工学専攻」「知能機械システム学域」「経営システムデザイン学域」の修了生実績



歩行ロボットコンテスト

機械システム工学域では、都市生活における人間の安全性と快適性および地球環境や社会の持続可能性に配慮した先進の機械システム工学の教育を基盤とし、学際分野、未開拓分野にも対応可能な創造性や応用展開力を有する技術者・研究者を育成することを目的としています。本学域は以下の3つの研究教育領域から構成されます。

#### 機械創成領域

機能材料と加工および基礎となる計測技術に関する概念・理論とともに、知能機械・生体機械の二つの基幹領域に横断する基礎的な方法論について教育し、ついで固有の専門分野に関する教育を行います。

#### 知能機械領域

「安全・安心で持続可能な社会」を実現するため、「機械制御・知能化システム」および「サービスマニピュレーション・ロボット工学」に関する学問を教育し、ついで固有の専門分野に関する教育を行います。

#### 生体機械領域

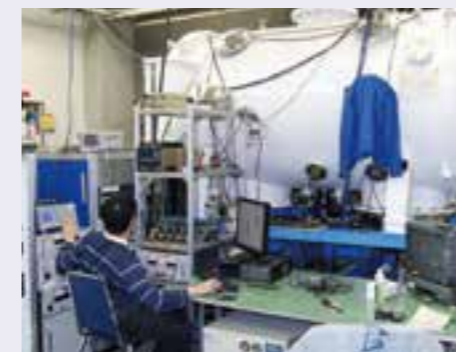
「高レベルな健康の維持および医療の支援」を実現するため、「医用工学・生体工学」および「人間工学・福祉工学」に関する学問を教育し、ついで固有の専門分野に関する教育を行います。

### 航空宇宙システム工学域

<https://aerospa.sd.tmu.ac.jp/>

**入学定員** 博士前期課程 / 30名、博士後期課程 / 4名

**主な就職先** 日本航空 (JAL)、全日本空輸 (ANA)、ソラシドエア、ジャムコ、住友精密、三菱重工業、川崎重工業、住友重機械工業、IHI、SUBARU、三菱電機、日本電気 (NEC)、トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車、スズキ、マツダ、日野自動車、いすゞ自動車、日立製作所 など



宇宙環境模擬下でのイオンエンジン作動実験

航空機・宇宙機の要素技術やシステム設計技術および宇宙開発利用に関する技術など総合工学としての航空宇宙工学に関する研究教育を通じ、国際的な視野と高い信頼性を要求されるシステムとして捉えうるエンジニアリング・マインドと課題解決力を持ち、航空宇宙産業のみならずさまざまな先端産業分野で活躍できる技術者、研究者を養成します。

研究教育分野は、飛行体の飛行や推進の基礎となる「流体力学」、航空宇宙用の複合材料や高温耐熱材料の力学から微小重力環境での材料プロセスまでを含んだ「材料・構造工学」、航空機・ロケットなどの「推進システム工学」、人工衛星の軌道と姿勢の制御や航空交通管理を扱う「誘導制御工学」、航空機・宇宙機を構成する要素設計やシステム統合設計、およびその応用、またそのために必要な手法を研究する「システム設計工学」、リモートセンシングや衛星利用の航法システム、宇宙環境工学など宇宙の実利用を重視した「宇宙利用工学」の6分野からなります。

さらに、連携大学院客員教授 (宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、海上・港湾・航空技術研究所) も加わり、最新の研究施設を利用した大学院教育を行える体制を整えています。

# システムデザイン研究科

- システムデザイン専攻
- > 情報科学域
  - > 電子情報システム工学域
  - > 機械システム工学域
  - > 航空宇宙システム工学域
  - > インダストリアルアート学域

## システムデザイン専攻

### インダストリアルアート学域

https://industrial-art.sd.tmu.ac.jp/

**入学定員** 博士前期課程 / 25名、博士後期課程 / 4名

**主な就職先** リクルートホールディングス、ソフトバンクグループ、ヤフー、サイバーエージェント、日本デザインセンター、凸版印刷、青森県立美術館、星野リゾートマネジメント、ソニー、パナソニック、富士通デザイン、日本電気 (NEC)、東芝、アシックス、ミサホーム、丹青社、トヨタ自動車、日産自動車、SUBARU、東日本旅客鉄道 (JR東日本) など



現代の激しい社会の変化、価値観の変化、技術の革新の波の中で、これらの変化に迅速に対応でき時代を先導できる柔軟で斬新な発想力を持ったクリエイターが強く望まれています。本学域では、この社会の要請に応えるため、新しいアプローチ、コンセプト、枠組みのデザインを創造・研究・実践し、さらには社会の枠組みの変化さえ先導しようと発想する新しいタイプのクリエイターの育成を目指しています。

そのために、本学域では、工学的側面から社会文化的側面に至る広範囲なデザイン領域を横断的複層的に研究対象として扱っています。本学域の構成は、交通機関・工業製品・空間などのデザインや人間工学から人と環境双方に役立つものづくりを展開する「プロダクトデザイン分野」と、先端メディア・テクノロジーや芸術活動を通じて新たな感性コミュニケーションを創出する「メディア創生分野」の2つの研究分野から成り、両分野が互いに連携することによってさらに大きなシステムを研究対象としていきます。

### 教員一覧 / 専門分野

情報科学域		
會田 雅樹 教授 / 通信ネットワークの自律分散制御、オンライン社会ネットワークにおけるユーザダイナミクスなどの研究	西内 信之 教授 / ヒューマンインタフェース、ユーザビリティ、生体認証	藤吉 正明 准教授 / メディア情報セキュリティ、画像処理、画像圧縮応用
池井 享 教授 / パーチャルリアリティ、超臨場感、五感情報学、認知工学、テレエクスペリエンス、ウェアラブルHI	松田 崇弘 教授 / 情報通信ネットワークの計測、監視、トモグラフィ技術、無線ネットワークの設計・制御技術	横山 昌平 准教授 / ジオソーシャルデータ分析アルゴリズム、ソーシャルデータの観光応用、Web技術を用いたデータ可視化
石川 博 教授 / ソーシャルメディアや実世界との相互作用から生まれる大量データ (ビッグデータ) を有機的、効率的に解析し、新しい価値を発見する技術の研究	山口 亨 教授 / 人間のジェスチャーを理解する意図の認識機構、人間と意図を共有しコミュニケーションするオントロジー機構、コミュニケーションが空間全体に広がる知能空間の研究	塩田 さやか 助教 / 統計的手法を用いた音声認識・話者照合に関する研究
小野 順貴 教授 / 音の信号処理と情報処理 (音源分離、音源定位、音シーン認識、非同期分散音響処理、音楽信号加工など)	片山 薫 准教授 / 大規模な三次元CADモデルを対象とした高精度な検査技術の研究開発	柴田 祐樹 助教 / データマイニング、情報推薦、人工知能、機械学習、最適化
貴家 仁志 教授 / 信号処理、画像圧縮、画像処理、情報セキュリティとフォレンジックス	小町 守 准教授 / 自然言語処理、ウェブマイニング、機械学習	下川 原 英理 助教 / ヒューマンコンピュータインタラクション、ジェスチャー認識に関する研究
高間 康史 教授 / Web/インテリジェンス、データマイニング、情報可視化、情報推薦	福井 隆雄 准教授 / 心理物理実験やモーションキャプチャシステムを用いた運動学的解析によるヒトの知覚・行動特性に関する研究	藤田 八郎 助教 / 符号理論、信号処理に関する研究
電子情報システム工学域		
朝香 卓也 教授 / 安全で快適な次世代情報環境の実現を目指した、情報ネットワークシステム技術とその応用に関する研究開発	初久保 文嘉 教授 / 放電物理、パルスパワー、気体放電プラズマとプラズマ化学反応の基礎とその応用。特に環境浄化技術への応用	渡部 泰明 教授 / 電子工学、計測工学
阿保 真 教授 / 電波や光を利用した遠隔環境情報計測及びその情報を伝送するシステムの研究	福本 聡 教授 / 自己回復能力をもつVLSIの構成、評価に関する研究、並列・分散システムの障害回復機能を実現するアルゴリズム・プロトコル等の研究	大久保 寛 准教授 / 波動情報工学、信号処理、数値解析、超並列計算、音響計測・解析、電磁界計測・解析、可視化技術
岩崎 一彦 教授 / コンピュータシステムの信頼性を高めるためのディバゲング技術に関する研究	松井 岳己 教授 / 人間工学、医療工学、安全工学、工学と医学の両方の側面から、医療や安全に関わるシステムの研究開発	五箇 繁善 准教授 / 精密な周波数・時間・時刻の発生とその応用に関する研究
内田 諭 教授 / 放電物理、プラズマ応用、静電気学	三浦 大介 教授 / 超伝導工学 (超伝導材料、超伝導応用)、磁気分離による環境浄化と資源回収	酒井 和哉 准教授 / 情報ネットワーク、ネットワーク・セキュリティ
開沼 泰隆 教授 / サプライ・チェーン・マネジメント、リソース・ロジスティクス	三浦 幸也 教授 / 高信頼性VLSIの設計に関する研究、VLSIの故障モデル化と効率テストに関する研究	坂本 高秀 准教授 / 光通信・計測に関する研究
梶原 康博 教授 / 生産システムの設計・管理、ロボット・画像処理を用いた作業の自動化、人工現実感を用いた工程設計などに関する研究	安田 恵一郎 教授 / システム工学、最適化手法と電力システムへの応用	柴田 泰邦 准教授 / 地球・都市環境問題に役立つリモートセンシングシステム (光計測、非接触可視化など) に関する研究
清水 敏久 教授 / 半導体電力変換工学、半導体電力回路のモデリング・制御と産業応用	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	渋谷 正弘 准教授 / 作業者を含めた生産技術の視覚化、及び、個人における意志決定のための情報の収集技術と企業情報の視覚化、及び、個人における意志決定のための支援するため支援方法について研究
鈴木 敬久 教授 / 生体電磁気学、プラズマ理工学、数値シミュレーション		相馬 隆郎 准教授 / 精度保証付き数値計算法、ロボット工学
須原 理彦 教授 / 量子電子工学・半導体デバイス工学		中村 成志 准教授 / 応用物性・結晶工学
田川 憲男 教授 / コンピュータビジョン、画像応用技術、超音波信号処理		西川 清史 准教授 / 信号処理、メディア情報伝送、適応信号処理

### 教員一覧 / 専門分野

電子情報システム工学域		
和田 圭二 准教授 / パワーエレクトロニクス、特に分散型電源や電力系統応用に関する研究	肖 霄 助教 / システム信頼性評価に関する研究	中川 雄介 助教 / プラズマ化学の産業応用、プラズマの分光診断
斉藤 光史 助教 / 化合物半導体結晶成長・半導体デバイス工学	田村 健一 助教 / システム制御理論	西辻 崇 助教 / ホログラフ、情報光学
佐藤 隆幸 助教 / 超音波生体画像、生体医学	土屋 淳一 助教 / 電気機器、電気エネルギー工学、パワーエレクトロニクス	KIK, Alfred 助教 / 電磁波工学
機械システム工学域		
小口 俊樹 教授 / 制御工学、非線形制御理論、むだ時間システムの制御、複雑系の制御・同期	諸貫 信行 教授 / 微粒子の自己整列のような自己組織プロセスを利用した微細加工に関する研究、それを応用した機能表面の設計	高橋 智 准教授 / 表面・界面工学、遮熱・耐摩耗コーティング、溶射、超音波接合
寛 幸次 教授 / 航空機エンジンタービンブレード用超合金、材料加工工学、金属組織学、機械材料学	楊 明 教授 / マイクロデバイスの製造・評価、MEMS生化学応用計測、マイクロ金属成形超精密な微小機械を創り、バイオや医療分野へ応用する新しいものづくり	武居 直行 准教授 / 人間支援ロボティクス、触覚テクノロジー、柔軟メカトロニクス、水中ロボティクス
久保田 直行 教授 / 人に優しいパートナーロボットの研究開発、知的制御、行動学習、人間とのコミュニケーションに関する研究	吉村 卓也 教授 / 振動工学、振動騒音解析、モード解析、ヒューマンダイナミクス	長井 超慧 准教授 / 形状モデリング、コンピュータグラフィックス、計算幾何
児島 晃 教授 / ロバスト制御、予測制御法の開発とメカトロニクス・エネルギー・産業システムへの応用に関する研究	若山 修一 教授 / 材料評価工学、生体力学、信頼性・健全性、薄膜太陽電池、セラミックス、熱衝撃破壊	本田 智 准教授 / 精密工学、設計工学、マイクロマシン (MEMS)、メカトロニクス
小林 訓史 教授 / 複合材料工学、材料力学、破壊力学、生体材料	下村 芳樹 教授 / 1. サービス工学研究 (製造業による高付加価値実現手法の確立。サービスの設計支援ツール (サービスCAD) の開発。製品サービスシステム (PSS)) 2. 設計研究 (創造的設計支援手法の開発) 3. ライフサイクル工学研究 (環境調和型製品・サービス設計に関する研究)	三好 洋美 准教授 / 細胞のメカノバイオロジー研究に基づいた生体に優しいバイオマテリアルのデザインへの確立
瀬尾 明彦 教授 / 人間工学、産業保健、生体力学	長谷 和徳 教授 / 人間機械システム工学、福祉工学、リハビリテーション工学、生体力学	和田 一義 准教授 / 福祉ロボット、空間型ロボットに関する研究
長谷 和徳 教授 / 人間機械システム工学、福祉工学、リハビリテーション工学、生体力学	藤江 裕道 教授 / ロボットシステムなどを用いた関節バイオメカニクスの研究、幹細胞による組織再生工学とナノ構造等新規材料の応用、軟骨の修復とバイオトライボロジー	小川 幸子 助教 / 微細加工、サステナブルマニュファクチャリング
増田 士朗 教授 / データ駆動制御、適応学習制御、制御システム設計	瀬尾 明彦 教授 / 人間工学、産業保健、生体力学	木見田 康治 助教 / 製品サービスシステムの工学的設計、受給者視点に基づく品質評価
航空宇宙システム工学域		
牛尾 知雄 教授 / 衛星からのリモートセンシング技術、フェーズドアレイレーダの研究開発など電波応用工学に関する研究等	北園 幸一 教授 / チタン、アルミニウム、マグネシウム等の航空宇宙用軽量金属材料の材料設計、力学的特性の評価に関する研究	倉元 昭季 助教 / 人間機械システム、バイオメカニクス、エルゴノミクス
小島 広久 教授 / スペースデブリや故障衛星の自律的捕獲回収を目的としたフリーフライング宇宙ロボットおよび導電性テザーシステムの力学、制御に関する研究	佐原 宏治 准教授 / 光電子物性工学、半導体材料工学、半導体量子構造デバイス、熱電変換材料、環境と高機能・高性能を両立する材料・プロセス・デバイスの開発	清水 徹英 助教 / メゾトライボロジー、表面改質によるトライボマテリアル創製
佐原 宏典 教授 / 超小型衛星を始めとする革新的な宇宙システム及び要素技術の研究開発とその利用法の開拓による未来の宇宙の創造	小島 広久 教授 / スペースデブリや故障衛星の自律的捕獲回収を目的としたフリーフライング宇宙ロボットおよび導電性テザーシステムの力学、制御に関する研究	玉置 元 助教 / 機械力学、ヒューマン・ダイナミクス
インダストリアルアート学域		
笠松 慶子 教授 / 人間工学、エビデンスベースデザイン、ヒューマンインタフェース	菊竹 雪 教授 / ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン	豊田 充 助教 / 制御工学、動的システムの最適制御と機械的システムへの応用
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	林 祐一郎 助教 / 身体動力学、生体運動計測・解析、多目的構造最適設計
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	松枝 剛広 助教 / 材料力学、破壊力学、金属疲労、生体力学
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	村上 和彦 助教 / 熱工学、冷凍工学、エネルギー変換工学
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	鈴木 真 助教 / 生体工学
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	金崎 雅博 准教授 / 航空機・宇宙機設計最適設計法についての理論・数値シミュレーション
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	櫻井 毅 准教授 / ガスタービンやロケット、パルスドネーションエンジンにおける燃焼現象の解明と利用に関する研究
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	田川 俊夫 准教授 / 磁気力を用いた浮力対流および二相流の制御、液滴・気泡のダイナミクス、回転流体やマランゴニ対流の安定性、ハルトマン境界層の数値解法などに関する研究
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	鳥阪 綾子 助教 / 大型宇宙柔軟構造物の構築 (挙動解析及び設計手法) に関する研究
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	古本 政博 助教 / 宇宙の安全を脅かすスペースデブリの軌道や運動を観測・予測する研究
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	渡邊 裕樹 助教 / 電気や化学エネルギーを利用した宇宙機用推進システムの性能および信頼性向上に関する研究
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	安藤 大地 助教 / メディアアート
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	土屋 真 助教 / 空間デザイン
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	西崎 実穂 助教 / グラフィックデザイン、生態心理学
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	日高 良祐 助教 / 音楽ファイルフォーマットの社会的生成に関するメディア技術史
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	茂木 龍太 助教 / デザイン方法論、プロダクトデザイン
山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	ADAMS, Veri 准教授 / Architecture, Spatial Design, Photography

※ 2020年3月定年退職予定

# 人間健康科学研究科

- 人間健康科学専攻
- > 看護科学域
  - > 理学療法科学域
  - > 作業療法科学域
  - > 放射線科学域
  - > フロントヘルスサイエンス学域
  - > ヘルスプロモーションサイエンス学域

人間健康科学研究科は、看護科学、理学療法科学、作業療法科学、放射線科学、フロントヘルスサイエンス(以上は荒川キャンパス)、ヘルスプロモーションサイエンス(南大沢キャンパス)の6つの学域から構成され、生理学的手法を用いる基礎的研究から、臨床研究やフィールド調査に至る幅広い研究に対応しており、さらに昼夜・土日も授業や演習を開講するなど大学院生のニーズを反映していることが特長です。

## 人間健康科学専攻

### 看護科学域

**入学定員** 博士前期課程 / 10名、博士後期課程 / 4名  
**主な就職先** あびこ助産師専門学校、広島国際大学、首都大学東京 など



ゼミ風景

大都市で生活する人々および地域の「健康」をテーマとし、看護科学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指しています。

博士前期課程では、看護倫理・管理学分野(看護倫理・管理学)、育成期看護学分野(助産学、リプロダクティブヘルス看護学、小児看護学)、成熟期看護学分野(成人看護学、高齢者看護学)、広域看護学分野(在宅看護学、公衆衛生看護学、地域精神看護学、国際看護 / 医療人類学)の各分野において、修士論文を作成する教育者・研究者養成プログラムを設けています。さらに、在宅看護学、小児看護学の分野においては、専門看護師コースがあります。また、博士後期課程では、看護科学と保健医療分野におけるリーダーとなる人材を育成しています。

本学域の特色は、看護倫理に関する高度な専門的知識の創出と判断能力の育成、地域および医療機関における女性、小児、認知症高齢者等へのケアに関する理論と方法の開発、地域住民や学生ボランティアのエンパワメント支援、行政と連携した看護ケアシステム開発に必要な能力の育成などのプログラムがあることです。

### 理学療法科学域

**入学定員** 博士前期課程 / 17名、博士後期課程 / 5名  
**主な就職先** 東京慈恵会医科大学附属病院 など



座位バランスおよび垂直軸認知の測定実験風景

運動障害分析理学療法学分野(発達障害理学療法学・障害予防理学療法学・内部障害理学療法学・認知運動科学理学療法学・神経系障害理学療法学)、身体機能回復理学療法学分野(固有受容性神経筋促通学・徒手理学療法学・筋骨格系理学療法学)、地域理学療法学分野の3つの研究分野をもち、理学療法科学の創造力と応用力を備えた高度実践専門家や研究者を育成します。また、前期課程の国際徒手理学療法学コースでは、OMPTの取得を目指します。各分野では、健康・障害に関する理学療法の知識・技術と科学的思考能力を体系的・総合的に学び、発達や慢性疾患・生活習慣病などによる身体の障害予防や機能回復などに関する高度な理学療法専門技術の研究開発、地域における人々の健康づくり・社会参加の促進などに関する研究を進めていきます。また、昼夜開講制の採用により、昼間には医療職として現場での経験を蓄積し、夜間にはそれらを生かしつつ理学療法科学研究を進めることができるため臨床と研究の有機的展開を図ることが可能です。大学院生の多くは、その研究成果を国内・外の学会にも積極的に発表を行っています。

## TMU #EDUCATION



01

医療科学と健康科学を深く理解した実践家を育成し、長寿社会の活力を支える

01 医療現場の実践的知見に基づく教育研究

人間健康科学研究科は、看護、理学療法、作業療法、放射線の医療科学分野、および身体運動、栄養・食品、疫学、生命科学の健康科学分野の2分野において教育研究を推進しています。各分野とも医療現場における実践的知見に基づき活力ある長寿社会の実現を目指し、特に大都市で生活する人々の健康に関連する研究を進め、それぞれの学問体系を深化させるとともに、分野間で融合し新たな知見を創出して社会に発信しています。

02 医療や研究のプロが自らを高めるための学び

医療科学、健康科学とも、看護師、理学療法士、作業療法士、放射線技師等の医療職に就くには必須の知識です。学部卒業後、さらに自分の知識、技術を高め、高度医療専門職や研究者、教育者、さまざまな分野での医療・健康のスペシャリストを目指す人の学びの場が本研究科です。高い研究力や優れた臨床実践力を持った教員が、高い理想を持った大学院生と共に切磋琢磨し学び合う場が、本研究科にはあります。



02

### 作業療法科学域

**入学定員** 博士前期課程 / 10名、博士後期課程 / 4名



ゼミ風景

作業療法科学域では、大都市で生活する人々の「健康」をテーマとし、その研究・教育を通じて「健康」に寄与し、活力ある長寿社会の実現を目指します。

#### 心身機能作業療法科学分野

本分野は、認知作業療法学、脳機能障害支援学、児童青年発達期作業療法学、老年心理行動分析学の4領域で構成され、人間を構成する身体、精神・心理、発達の領域研究とそれぞれの学際性ならびに統合研究を行うことを目的としています。

#### 作業行動科学分野

本分野は、作業行動学、作業科学、精神作業療法学、老年地域参加支援学の4領域で構成され、臨床実践への応用やエビデンスの産出および理論に寄与する諸概念の理解を通して作業療法の可能性を探求することを目的としています。

#### 作業生活環境科学分野

本分野は、作業生活支援学、作業遂行分析学、福祉機器関連適用学、生活環境分析学の4領域で構成され、物的環境、人的環境、政策的環境、自然環境、文化的環境などが、いかにして人の作業参加を阻害・促進するのかを明らかにし、人の生活を豊かにする手だてを探求することを目的としています。

### 放射線科学域

**入学定員** 博士前期課程 / 21名、博士後期課程 / 6名  
**主な就職先** 東京大学医学部附属病院、慶應義塾大学病院、がん研究会有明病院、神奈川県立がんセンター、がん・感染症センター都立駒込病院、JR東京総合病院、渋川医療センター、東部地域病院 など



最新鋭の放射線治療装置

放射線学の専門知識と最新技術の知見を教授することによって、①創造的かつ科学的思考に基づいた高度放射線専門職の育成、②専門領域における高度な知識、能力を有するのみならず、他領域の研究成果を理解し、それらを統合することによって先端医療技術を開発できる人材の育成を目指します。

大学院前期課程では保健科学系学部はもちろんのこと、理工系学部・大学院出身者等の入学を視野に入れた統合的カリキュラムを採用しています。また、医学物理士認定機構認定の医学物理士の養成も目指しています。

授業は最近の研究動向や教員の研究成果に基づいた講義・演習で構成し、絶えず最新の知見を教授するように努めます。

施設面では、X線CT(MDCT)、MRI、CR、フラットパネルディテクタ(FPD)およびSPECT-CT装置などの診断装置、非密封RI 施設やリニアックなど放射線治療装置などがキャンパス内に実験・研究用として備えられており、充実した実験・研究が行われています。それらを背景に診断、治療等に関する先端的医療技術および医用画像処理技術・放射線計測法の開発を目指します。

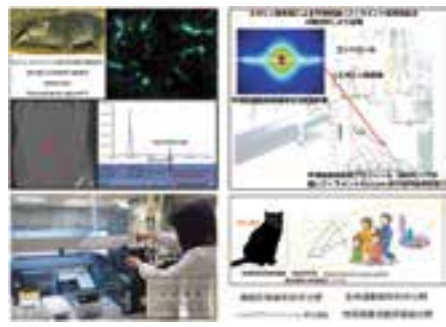
# 人間健康科学研究科

- 人間健康科学専攻
- > 看護科学域 > 放射線科学域
  - > 理学療法科学域 > フロンティアヘルスサイエンス学域
  - > 作業療法科学域 > ヘルスプロモーションサイエンス学域

## 人間健康科学専攻

### フロンティアヘルスサイエンス学域

入学定員 博士前期課程 / 4名、博士後期課程 / 2名



人間健康科学分野の諸課題に、生命科学、基礎・臨床医学などの学際的・先端基礎科学的研究戦略で、分子、細胞、器官、個体などのレベルからアプローチします。

学域は3分野と1寄附講座で構成され、①機能形態解析科学分野では、内臓自律神経の形態分布と臨床応用に関する研究、内臓脂肪蓄積の生理病態メカニズムの研究および膵がんを含む膵臓の病理病態解析の三つの方面の研究、②生体運動解析科学分野では、構造を保持した筋細胞における収縮装置構造・機能連関に関する研究、③地域保健活動評価論分野では、社会的側面の強い看護師等のケア関連事象の評価について、量的研究デザイン・疫学的研究方法・保健統計法を主体として研究、④ヘルスケアイノベーション寄附講座(Project Division for Healthcare Innovation)では、生活習慣病やがんなどの高額な医療費が必要となる疾患を対象に、早期に正確な診断を可能とするある種のホルモンやタンパク質のようなバイオマーカーについて高感度・高特異的な化学発光酵素免疫測定法に関する研究開発を行います。教育・研究を推進するために、他の学域などと柔軟で有機的な連携を行うほか、連携機関である東京都医学総合研究所や東京都健康長寿医療センターなどにおける最先端の総合的研究基盤を活用して、学際的・先端基礎科学的な研究・学問領域の高度な研究者・教育者、広い学識と高度な研究能力を有する実践的専門家を養成します。

### ヘルスプロモーションサイエンス学域

入学定員 博士前期課程 / 8名、博士後期課程 / 4名

主な就職先 つくばウエルネスリサーチ、日本冷凍食品検査協会、丸三産業 など



動物用走行運動負荷装置を用いた実験の様子

ヘルスプロモーションサイエンス学域は、健康の保持増進に関する基礎および応用研究を通して、人間と健康についての専門的知識と高度な課題解決能力を身につけることを目的とします。さらに、自身の専門分野だけでなく、異なる専門分野とのコミュニケーションも取れる自立した研究者および幅広い学識を有する高度専門家を育成します。人間と健康に関する諸問題には極めて複雑な背景が存在し、その問題解決にはさまざまな分野からの学際的な検討による全体像の把握、構成因子の作用機序の解明、因果関係の理解が必要です。本学域は、「適応科学」「行動科学」の2分野から構成され、それぞれの教員が有する博士号(専門性)は、医学、農学、心理学、体育科学、スポーツ医学など多岐にわたっており、専門分野の異なる研究者が個々の切り口から健康科学・人間科学の新たな展開を創造・推進しています。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 看護科学域

- 安達 久美子 教授 / 若年妊婦・出産、思春期の性と健康、ピアカウンセリング、熟練助産師、子育て支援
- 織井 優貴子 教授 / 高齢者看護、がん看護、シミュレーション教育
- 河原 加代子 教授 / 地域看護学、システム開発、腹式呼吸、誤嚥予防のケア、脳卒中、家族ケア
- 斉藤 恵美子 教授 / 公衆衛生看護学、公衆衛生看護活動に関する研究、コミュニティ・アセスメント
- 習田 明裕 教授 / 基礎看護学(フィジカル・アセスメント)、看護倫理学、看護技術のエビデンス、臓器移植看護
- 西村 ユミ 教授 / 成人看護学、病院看護の記述的研究、現象学的研究、遺伝性疾患をめぐる経験の語り
- 山村 礎 教授 / 地域における精神障害者の自立に関連する要因とケア
- 山本 美智代 教授 / 小児看護学、障がい児者の家族への看護、災害看護

#### 理学療法科学域

- 浅川 康吉 教授 / 地域理学療法
- 網本 和 教授 / 脳挫傷による高次神経機能障害の評価と治療について
- 池田 由美 教授 / 運動・行為の発現に関する研究、運動学習、認知神経リハビリテーション
- 竹井 仁 教授 / 徒手理学療法、運動器疾患、運動学、機能解剖学

#### 作業療法科学域

- 石井 良和 教授 / 精神領域の作業療法および人間作業モデルの評価・適用に関する研究
- 大嶋 伸雄 教授 / 身体障害の作業療法、認知リハビリテーション、リハビリテーション・マネジメント理論、保健医療福祉専門職連携理論(IPC)・連携教育(IPE)に関する研究
- 小林 法一 教授 / 高齢者の地域作業療法に関する研究
- 小林 隆司 教授 / 地域包括ケアにおける作業の習慣化プロセスの解明と介入プログラムの開発
- BONTJE, Peter 教授 / 作業科学、身体障がいのある成人と高齢者の参加、多職種間連携とその教育、研究法:行為の中のナラティブ・参加型

#### 放射線科学域

- 小倉 泉 教授 / 診断用X線高電圧発生回路とその高電圧計測に関する研究
- 加藤 洋 教授 / 核的方法による元素分析、放射線防護に関する研究
- 齋藤 秀敏 教授 / 高精度放射線治療の物理、計測、照射法、品質管理に関する研究および医療情報学
- 白川 崇子 教授 / 放射線画像診断学、超音波診断学
- 妹尾 淳史 教授 / 医療機器を用いた生体内情報の可視化法の開発と応用

#### フロンティアヘルスサイエンス学域

- 易 勳 教授 / 自律神経、人体構造学、臨床解剖学
- 菊池 吉晃 教授 / 脳機能イメージング(fMRI、MEGなど)を用いた認知神経科学的研究

#### ヘルスプロモーションサイエンス学域

- 北 一郎 教授 / 運動と情動の行動神経科学 / 呼吸循環反応の神経性調節
- 樋口 貴広 教授 / 空間移動行動(歩行、車いす)における知覚運動制御、知覚と行為のインタラクション
- 藤井 宣晴 教授 / 分子生物学、運動生化学、内分泌代謝、筋収縮によって筋細胞に生じる現象(糖輸送/分泌/細胞内情報伝達/遺伝子発現)の解明

- 飯塚 哲子 准教授 / 成人看護学、終末期看護、デスエデュケーション
- 石川 陽子 准教授 / 国際看護・保健、看護政策、看護管理、医療政策
- 岡本 有子 准教授 / 在宅看護、エンドオブライフケア、老年看護
- 木村 千里 准教授 / 母性看護学・助産学、地域母子保健、ウイメンズ・ヘルス、育成期の家族の看護
- 島田 恵 准教授 / 慢性疾患患者への外来療養支援、HIV医療包括ケア体制の整備、HIV/AIDSコーディネーターナースの養成
- 園部 真美 准教授 / 母性看護学・助産学、乳幼児精神保健、母子相互作用と出産・育児
- 吉吉 啓子 准教授 / 小児看護学、慢性疾患のある子どもとその家族への看護
- 野村 亜由美 准教授 / 医療人類学、国際看護、基礎看護学、高齢者の認知症に関する学際的研究
- 菱沼 由梨 准教授 / 助産学教育、臨床教育の質の向上・臨床指導者育成に関わる研究、尺度開発

- 新田 収 教授 / 人の運動発達及び脳性麻痺における身体・運動学的な特徴について
- 山田 拓実 教授 / 呼吸リハビリテーション、バイオメカニクス、整形外科徒手療法、高齢者転倒予防・介護予防
- 宇佐 英幸 准教授 / ヒトの運動に関する研究、徒手療法
- 来間 弘展 准教授 / 機能的磁気共鳴画像などを用いたヒトの運動に関する研究、徒手療法

- 石橋 裕 准教授 / 健康増進事業における作業療法支援の効果研究、化粧品を用いた作業療法プログラム(SSPC)の効果研究
- 伊藤 祐子 准教授 / 小児領域の作業療法、発達障害児者、感覚統合、生活支援機器、特別支援教育における作業療法に関する研究
- 井上 薫 准教授 / 作業療法教育および福祉用具・評価・トレーニング機器の開発、医療・福祉ロボットの臨床応用
- 蘭牟田 洋美 准教授 / 高齢者心理学・閉じこもり高齢者への心理的支援法、高齢者の居場所感の研究

- 福士 政広 教授 / 核医学画像の定量化に関する研究と保健物理学および放射線科学教育に関する研究
- 古川 顕 教授 / 画像診断学、腹部・消化管画像診断学、救急疾患画像診断学、Interventional Radiology
- 井上 一雅 准教授 / 核医学、分子イメージング、環境放射線に関する研究
- 眞正 浄光 准教授 / 放射線感応素子の開発、および放射線計測システムの開発に関する研究、放射線化学、放射線計測システム

- 猫田 泰敏 教授 / 地域保健活動評価論、公衆衛生学、疫学

- 眞鍋 康子 准教授 / 筋収縮によって筋細胞に生じる現象(糖輸送/分泌/細胞内情報伝達/遺伝子発現)の解明、細胞生物学、運動分子生物学
- 山内 潤一郎 准教授 / 生体機能・神経-筋生理学、身体能力向上と生体機能の可能性と不思議を追求
- 西島 壮 准教授 / スポーツ神経科学、運動 / 身体不活動が脳機能に及ぼす影響とその神経メカニズムの解明

- 廣川 聖子 准教授 / 地域精神保健、訪問支援、自殺
- 福井 里美 准教授 / 成人看護学、がん看護学、慢性疾患患者への心理社会的支援、サポートグループ実践研究、緩和ケアの実践知
- 増谷 順子 准教授 / 高齢者看護学、認知症高齢者看護、園芸療法
- 巖 千晶 助教 / 子ども立ち会い出産
- 大庭 貴子 助教 / 基礎看護学、造血幹細胞移植看護
- 川添 美花 助教 / 地域精神保健、精神的な問題を抱えた若年者へのケア
- 坂井 志織 助教 / 成人看護学、現象学的研究、しびれの経験に関する研究、慢性的痛みの経験
- 仙波 雅子 助教 / 高齢者看護学、療養環境に関する研究
- 高嶋 希世子 助教 / 小児看護学、小児がんの子どものトータルケア
- 前田 耕助 助教 / 基礎看護学、看護技術のエビデンス
- 三輪 聖恵 助教 / 基礎看護学、新卒看護師の職場適応に関する研究
- 村上 優子 助教 / 成人看護学、現象学的研究、外傷により脊髄を損傷した人の経験の研究
- 吉羽 久美 助教 / 公衆衛生看護学

- 信太 奈美 准教授 / 障害者スポーツに関する研究、補装具、脊髄損傷のリハビリテーション
- 古川 順光 准教授 / 内部障害理学療法学、障害科学、応用健康科学、体力医学
- 神尾 博代 助教 / リハビリテーション科学、応用健康科学、ウイメンズヘルス

- 谷村 厚子 准教授 / 精神科領域の作業療法に関する研究、地域精神保健サービスに関する研究、作業療法教育に関する研究
- 橋本 美芽 准教授 / 高齢者・障がい者の障害特性と住環境・福祉用具の適合に関する研究、認知症高齢者の住環境整備に関する研究
- 宮本 礼子 准教授 / functional MRIを用いたヒトの自己認識に関する研究、高次脳機能障害作業療法教育に関する研究、学生の総合臨床実習に関する自己認識の研究、作業療法学生の自己認識に関する国際比較研究

- 関根 紀夫 准教授 / 医用画像工学、医用画像解析学、教育工学
- 乳井 嘉之 准教授 / 医用画像情報学、医用画像処理、医用画像の映像化法および統計解析に関する研究
- 根岸 徹 准教授 / 医療被ばくの最適化に関する研究、乳房用X線装置の精度管理に関する研究
- 沼野 智一 准教授 / 画像診断技術学、磁気共鳴画像技術学
- 明上山 温 准教授 / 医用画像処理、3次元画像処理、高精度放射線治療技術

- 渡邊 賢 教授 / 筋肉生理学、分子細胞生理学に関する研究、X線解析法などを用いた筋肉細胞の構造・機能連関に関する研究

- 井村 祥子 助教 / スポーツバイオメカニクス、回転動作、体幹と体肢の協調運動バランス、ダンスのバイオメカニクス
- 福原 和伸 助教 / スポーツ選手の知覚・認知スキルの解明、仮想現実を利用したトレーニングシステムの構築
- 古市 泰郎 助教 / 運動生化学、骨格筋生物学、骨格筋の可塑性を制御する細胞内機構の探索

## 大学院入試状況 (2019年4月1日現在)

### 人文科学研究科

専攻	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
社会行動学専攻	14名	88名	16名	14名	10名	13名	8名	7名
人間科学専攻	17名	102名	24名	21名	6名	12名	7名	7名
文化基礎論専攻	13名	15名	4名	3名	5名	7名	5名	5名
文化関係論専攻	5名	20名	9名	2名	4名	4名	4名	2名

### 法学政治学研究科

専攻	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
法学政治学専攻 法律学分野／政治学分野	6名	18名	6名	3名	4名	6名	2名	2名

専攻	専門職学位課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
法曹養成専攻(法科大学院)	40名	157名	56名	38名

### 経営学研究科 経営学専攻

専攻	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
経営学プログラム		123名	38名	29名				
経済学プログラム	50名	23名	7名	6名	5名	9名	4名	4名
ファイナンスプログラム		6名	6名	5名				

### 理学研究科

専攻	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
数理科学専攻	25名	52名	32名	28名	8名	5名	4名	4名
物理学専攻	35名	62名	40名	33名	10名	5名	5名	5名
化学専攻	35名	51名	35名	33名	9名	2名	2名	2名
生命科学専攻	40名	56名	41名	37名	16名	7名	7名	7名

### 都市環境科学研究科 都市環境科学専攻

学域	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
地理環境学域	15名	15名	13名	11名	5名	2名	1名	1名
都市基盤環境学域	35名	57名	42名	40名	4名	2名	2名	2名
建築学域	35名	53名	34名	24名	4名	2名	2名	2名
環境応用化学域	50名	76名	66名	53名	6名	6名	6名	6名
観光科学域	15名	23名	16名	16名	5名	3名	2名	2名
都市政策科学域	15名	41名	22名	16名	5名	1名	1名	1名

### システムデザイン研究科 システムデザイン専攻

学域	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
情報科学域	35名	82名	47名	44名	6名	9名	9名	9名
電子情報システム工学域	60名	129名	85名	76名	6名	7名	7名	7名
機械システム工学域	65名	161名	95名	82名	6名	13名	13名	13名
航空宇宙システム工学域	30名	75名	40名	35名	4名	1名	1名	1名
インダストリアルアート学域	25名	55名	34名	32名	4名	4名	4名	4名

### 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻

学域	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
看護科学域	10名	23名	12名	11名	4名	11名	4名	4名
理学療法科学域	17名	10名	10名	10名	5名	5名	5名	5名
作業療法科学域	10名	24名	11名	11名	4名	5名	4名	4名
放射線科学域	21名	23名	22名	22名	6名	5名	5名	5名
フロンティアヘルスサイエンス学域	4名	6名	4名	3名	2名	—	—	—
ヘルスプロモーションサイエンス学域	8名	6名	6名	6名	4名	6名	6名	6名

## 学費 (2019年度)

研究科名	課程	授業料	入学金	
			東京都の住民*	その他の住民
人文科学研究科	博士前期課程 博士後期課程	520,800円	141,000円	282,000円
法学政治学研究科	博士前期課程 博士後期課程			
経営学研究科	博士前期課程 博士後期課程			
理学研究科	博士前期課程 博士後期課程			
都市環境科学研究科	博士前期課程 博士後期課程			
システムデザイン研究科	博士前期課程 博士後期課程			
人間健康科学研究科	博士前期課程 博士後期課程			

専攻名	課程	授業料	入学金	
			東京都の住民*	その他の住民
法曹養成専攻(法科大学院)	2年履修課程 3年履修課程	663,000円	141,000円	282,000円

\*「東京都の住民」とは、本人又はその者の配偶者若しくは一親等の親族が入学の日(平成31年4月1日)の1年前(平成30年4月1日)から引き続き東京都内に住所を有する者をいいます。その認定は、本人が東京都内に在住の場合は本人の「住民票記載事項証明書」、その他の場合は東京都内に在住する親族等の「住民票記載事項証明書」及び本人との親族関係を明らかにする戸籍抄本等により行います。

## 奨学金

### 博士後期課程研究奨励奨学金

本学大学院博士後期課程に入学する研究意欲が旺盛で優秀な学生に対し、経済的な理由で進学を断念することなく、研究に専念できる環境を提供し、研究奨励のために支給する給付型の奨学金制度です。

### 大学院生支援奨学金

本学大学院において研究・学業に取り組んでいる学生に対し、経済的支援をするとともに、公立大学法人として優秀な人材を輩出することを目的として創設された給付型の奨学金制度です。

### 日本学生支援機構奨学金(2019年度貸与月額)

日本学生支援機構は、国の育英事業を行っている機関です。貸与を受けることができる奨学金は、「第一種」と「第二種」があり、両方を併用することもできます。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課程</th> <th>博士前期(修士)課程 専門職大学院の課程</th> <th>博士後期課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種奨学金</td> <td>50,000円・88,000円</td> <td>80,000円・122,000円</td> </tr> <tr> <td>第二種奨学金</td> <td colspan="2">50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円 のいずれか 法科大学院生は、別途金額設定あり</td> </tr> </tbody> </table>	課程	博士前期(修士)課程 専門職大学院の課程	博士後期課程	第一種奨学金	50,000円・88,000円	80,000円・122,000円	第二種奨学金	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円 のいずれか 法科大学院生は、別途金額設定あり	
課程	博士前期(修士)課程 専門職大学院の課程	博士後期課程								
第一種奨学金	50,000円・88,000円	80,000円・122,000円								
第二種奨学金	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円 のいずれか 法科大学院生は、別途金額設定あり									

### 民間・地方公共団体奨学金

奨学金には、日本学生支援機構以外にも民間団体や地方公共団体が募集する奨学金があります。

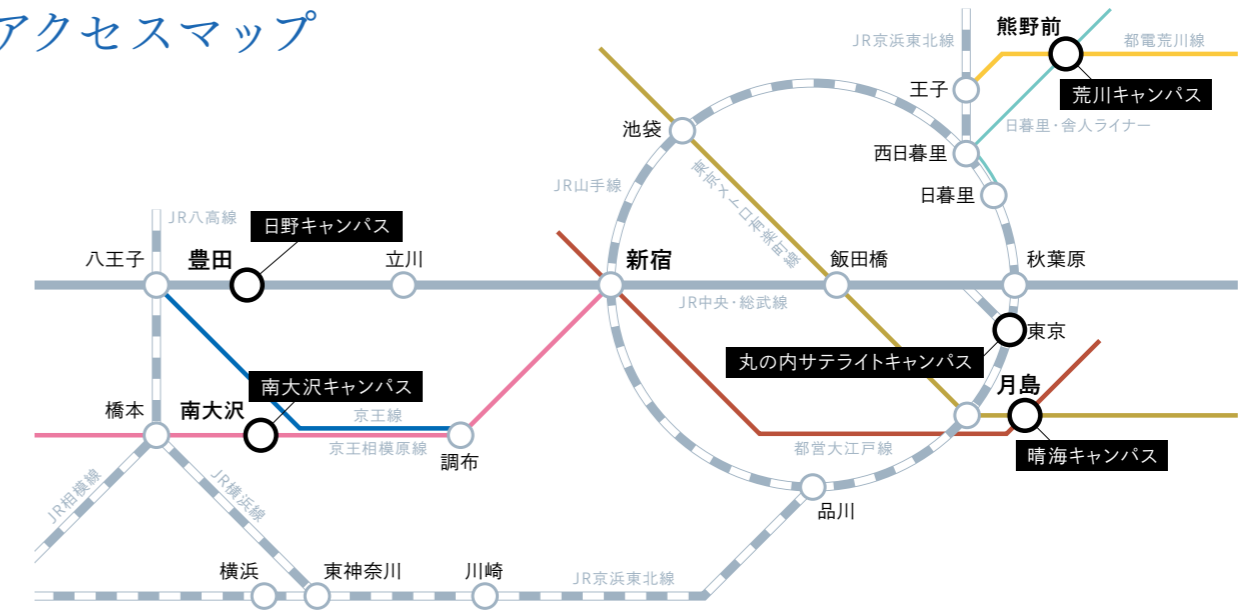
大学院生に対する経済支援制度については、本学ウェブサイトにも掲載しております。

<https://www.tmu.ac.jp/entrance/graduate/about.html>

# 大学院選考日程

研究科名	課程	区分	出願期間	選考日	合格発表	問い合わせ
人文科学研究科	博士前期課程	9月入試	郵送 8/9~8/15	9/24, 25	10/4	文系学務課 人文社会学部教務係 ☎042-677-2053
		2月入試	郵送 1/6~1/10	2/18, 19	2/27	
	博士後期課程		郵送 1/6~1/10	2/19, 20	2/27	
法学政治学研究科	博士前期課程	2019年10月入学 外国人特別選抜	8/5~8/9	9/4	9/10	文系学務課 法学部教務係 ☎042-677-2253
		4月入学(9月入試)	8/5~8/9	9/4	9/10	
		4月入学(9月入試) 外国人実務家	8/5~8/9	9/4	9/10	
		4月入学(2月入試)	1/6~1/14	2/14	2/21	
	4月入学(2月入試) 外国人実務家	1/6~1/10	2/14	2/21		
	4月入学(2月入試) 外国人特別選抜	1/6~1/10	2/14	2/21		
博士後期課程	2019年10月入学(9月入試)	8/5~8/9	9/4	9/10		
	4月入学(2月入試)	1/6~1/14	2/14	2/21		
法曹養成専攻 (法科大学院)	専門職学位課程	2年履修課程	郵送 9/19~9/26	1次(筆記試験) 10/26 2次(口頭試問) 11/23	1次(筆記試験) 11/6 最終 12/4	文系学務課 法曹養成専攻担当 ☎03-3536-7756
		3年履修課程	郵送 9/19~9/26	1次(筆記試験) 10/26 2次(口頭試問) 11/23	1次(筆記試験) 11/6 最終 12/4	
経営学研究科	博士前期課程	一般選抜(9月入試)	郵送 7/25~8/2	9/7	9/27	文系学務課 経済経営学部教務係 ☎042-677-2303
		経営学プログラム 経済学プログラム ファイナンスプログラム	一般選抜(2月入試)	郵送 1/6~1/10	2/8	
	博士後期課程	公共経営特別選抜 (経営学プログラムのみ)	郵送 1/6~1/10	2/8	2/21	
		2019年10月入学(9月入試)	郵送 7/25~8/2	9/7	9/12	
		2020年4月入学(2月入試)	郵送 1/6~1/10	2/8	2/21	
理学研究科	博士前期課程	2019年10月入学	郵送 7/26~8/2	8/27, 28	9/6	理系学務課 理学部教務係 ☎042-677-2444
		夏季入試	郵送 7/26~8/2	8/27, 28	9/6	
	博士後期課程	冬季入試	郵送 1/7~1/14	2/6, 7	2/17	
		2019年10月入学	郵送 7/26~8/2	8/26	9/6	
		冬季入試	郵送 1/7~1/14 持参 1/15	2/5	2/17	
都市環境科学研究科	博士前期課程	夏季入試 [2019年10月入学 2020年4月入学]	7/2~7/9	8/1, 2 7/31 7/31, 8/1 7/31, 8/1 7/31, 8/1	8/23	理系学務課 都市環境学部教務係 ☎042-677-2694
		冬季入試 [2020年4月入学]	1/7~1/14	2/5 2/5 2/6 2/6 2/5, 6	2/19	
			※建築学域は夏季入試の 入学予定者が募集人員 に満たない場合のみ実施			
	博士後期課程	夏季入試 [2019年10月入学 2020年4月入学]	7/2~7/9	8/1, 2 8/1 7/31 7/31 8/1	8/23	
		冬季入試 [2020年4月入学 2020年10月入学]	1/7~1/14	2/5 2/5 2/6 2/7 2/7 2/6 2/6	2/19	
			※2019年10月入学のみ実施			
システムデザイン研究科	博士前期課程	夏季募集	7/1~7/4	8/7, 8	8/23	日野キャンパス 管理部学務課教務係 ☎042-585-8623
		冬季募集	1/6, 7	1/23	1/31	
	博士後期課程	夏季募集	7/1~7/4	8/7, 8	8/23	
		冬季募集	1/6, 7	1/23	1/31	
		2019年10月入学	5/7~5/10	5/31	6/21	
人間健康科学研究科	博士前期課程	春季入試(10月入学) 理学療法科学域 (国際徒手理学療法学コース)	4/16~4/23	5/11	5/23	荒川キャンパス 管理部学務課教務係 ☎03-3819-7124
		夏季入試	7/31~8/6	9/4	9/26	
	博士後期課程	冬季入試	12/12~12/18	2/1	2/13	
		夏季入試	7/31~8/6	9/4	9/26	
		冬季入試	12/12~12/18	2/1	2/13	

# アクセスマップ



## 南大沢キャンパス

- > 人文科学研究科
- > 法学政治学研究科  
(法学政治学専攻)
- > 経営学研究科
- > 理学研究科
- > 都市環境科学研究科
- > システムデザイン研究科  
(電子情報システム工学域・機械システム工学域の一部)
- > 人間健康科学研究科  
(ヘルスプロモーションサイエンス学域)

**所在地**  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
TEL.042-677-1111(代表)

**アクセス**  
京王相模原線「南大沢」駅、改札口から徒歩5分  
※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

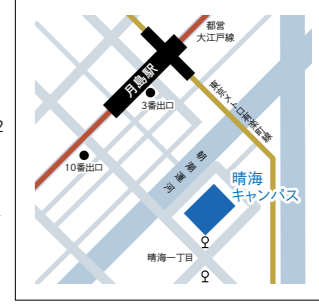


## 晴海キャンパス

- > 法曹養成専攻  
(法科大学院)

**所在地**  
〒104-0053 東京都中央区晴海1-2-2  
TEL.03-3536-7756(代表)

**アクセス**  
東京メトロ有楽町線・都営地下鉄大江戸線  
「月島駅」下車10番出口 徒歩約5分

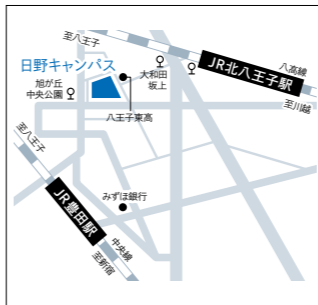


## 日野キャンパス

- > システムデザイン研究科

**所在地**  
〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6  
TEL.042-585-8606(代表)

**アクセス**  
JR「豊田」駅から徒歩約20分、またはバス・徒歩約15分  
JR「八王子」駅からバス・徒歩約25~40分  
JR「北八王子」駅から徒歩約15分  
京王線「京王八王子」駅からバス・徒歩約25~40分



## 丸の内サテライトキャンパス

- > 経営学研究科

**所在地**  
〒100-0005  
東京都千代田区丸の内1-4-1  
丸の内永楽ビルディング18階  
TEL.03-6268-0521(代表)

**アクセス**  
JR線東京駅丸の内北口 徒歩約5分  
東京メトロ・都営地下鉄大手町駅直結



## 荒川キャンパス

- > 人間健康科学研究科  
(ヘルスプロモーションサイエンス学域を除く)

**所在地**  
〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10  
TEL.03-3819-1211(代表)

**アクセス**  
日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩3分  
都電荒川線「熊野前」駅下車徒歩3分  
JR「田端」駅から都バス端44系統「北千住駅」乗車  
「首都大荒川キャンパス前」下車  
JR常磐線、つくばエクスプレス、東京メトロ「北千住」駅から  
都バス端44系統「駒込病院前行」乗車「首都大荒川キャンパス前」下車





# 東京都立大学

現首都大学東京

人文科学研究科 法学政治学研究科 経済学研究科 理学研究科  
都市環境科学研究科 システムデザイン研究科 人間健康学研究科

## 南大沢キャンパス

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
TEL. 042-677-1111(代)

## 日野キャンパス

〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6  
TEL. 042-585-8606(代)

## 荒川キャンパス

〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10  
TEL. 03-3819-1211(代)